Pioneer sound.vision.soul

AVデジタルサラウンド・アンプ

# VSA-C555

お使いになる前に

各部の名称とはたらき

接続

基本操作

設定

応用操作

リモコンの使いこなし

その他

## お客様登録のご案内

**http://www3.pioneer.co.jp/members/**

お買い上げいただきました製品についての**「お客様登録」**をお願いいたします。ご登録いただきますと、プレゼントや懸賞商品が当たるキャンペーン/イベント情報や各種製品情報などのご案内をさせていただきます。
また、ご登録いただきますとIDが発行され、お役に立つ情報満載のお客様専用ページにアクセスすることができます。
ご登録は上記URLにアクセスしてご利用ください。

**新規登録されたお客様には、毎月プレゼントを抽選にて差し上げております。詳しくは、上記URLにアクセスしてください。**

# 取扱説明書

このたびは、パイオニアの製品をお買い求めいただきましてまことにありがとうございます。本機の性能を十分に発揮させて効果的にご利用いただくために、この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。特に「安全上のご注意」は必ずお読みください。なお、「取扱説明書」「安全上のご注意」は、「保証書」「ご相談窓口・修理窓口のご案内」と一緒に必ず保管してください。

# 安全上のご注意（絵表示について）

**この取扱説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。**
**内容をよく理解してから本文をお読みください。**

## 警告

**この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。**

## 注意

**この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。**

## 絵表示の例

**△ 記号は注意(警告を含む)しなければならない内容であることを示しています。**
**図の中に具体的な注意内容(左図の場合は感電注意)が描かれています。**

**⃠ 記号は禁止(やってはいけないこと)を示しています。**
**図の中や近くに具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。**

**● 記号は行動を強制したり指示する内容を示しています。**
**図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜く)が描かれています。**

## ⚠ 警告[異常時の処理]

プラグを抜く

**● 万一煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。**

プラグを抜く

**● 万一内部に水や異物等が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。**

プラグを抜く

**● 万一本機を落としたり、カバーを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。**

# 本機の特長　～こんなことができます～

## ホームシアターの実現

### ✥ ドルビーデジタル、DTSデコーダー搭載 (47ページ)

ドルビーデジタル音声やDTS音声で収録された映画や音楽ソフトを臨場感豊かに再生し、映画館やコンサートホールの迫力をご家庭で手軽にお楽しみいただけます。

### ✥ MPEG-2 AACデコーダー搭載 (47ページ)

BSデジタル放送のサラウンド音声も、マルチチャンネルサラウンドでお楽しみいただけます。

### ✥ ドルビープロロジックII回路搭載 (48ページ)

2チャンネルステレオ音声や、ドルビーサラウンド音声で収録されたソフトもドルビープロロジックII回路を使ってマルチチャンネルサラウンドでお楽しみいただけます。



## 簡単便利！！

### ✥ リスニング環境の自動設定 (22,24ページ)

スピーカーの有り/無しを検出して、それに合わせて自動で設定したり、お部屋のタイプを選ぶだけでサラウンド環境を改善する機能を持っているので、難しいと思われがちなホームシアターに関する設定が簡単に行えます。（ご自分で細かく設定することもできます）

### ✥ 簡単リモコン付属

アンプ操作部分が独立した簡単、便利なリモコン操作。また、プリセット機能も備えているため、他機器（TV、DVD、VTRなど）の操作も行えます。

### ✥ 豊富な接続端子

豊富な接続端子を備え、デジタル接続や映像のS2端子にも対応しているため、テレビ周りの映像機器を一手に引き受けることができます。

## バラエティ豊かなホームシアター

### ✥ 豊富なリスニングモード　(35～36ページ)

映画や音楽だけでなく、TVやゲームなど、お聴きになるソフトに合わせたサウンド効果を加えることができます。

### ✥ バーチャル機能搭載　(35～36ページ)

ヘッドホンや2つのスピーカーのみといった環境でも、マルチチャンネルサラウンドで聴いているような臨場感でお楽しみいただけます。

### ✥ ナチュラルモード (38ページ)

小型スピーカーを使用してマルチチャンネル再生しているときに、周波数特性を補正してより臨場感のあるサラウンド再生を行います。

### ✥ ミッドナイトモード (38ページ)

夜中など、小音量で聴いているときでも大音量で聴いているときのような臨場感を味わうことができます。

### ✥ マナーモード (38ページ)

高音が耳につくときや、低音が響きすぎるときにこれらの音を和らげて再生することができます。

### ✥ ブライトモード (38ページ)

2chソースを再生しているときに不足しがちな低域と高域を補正し、クリアなサウンドを再生します。

### ✥ 重低音モード (38ページ)

低音を強調して、映画や音楽を迫力ある臨場感で再生します。

## 環境に優しく

### ✥ 省エネルギー設計

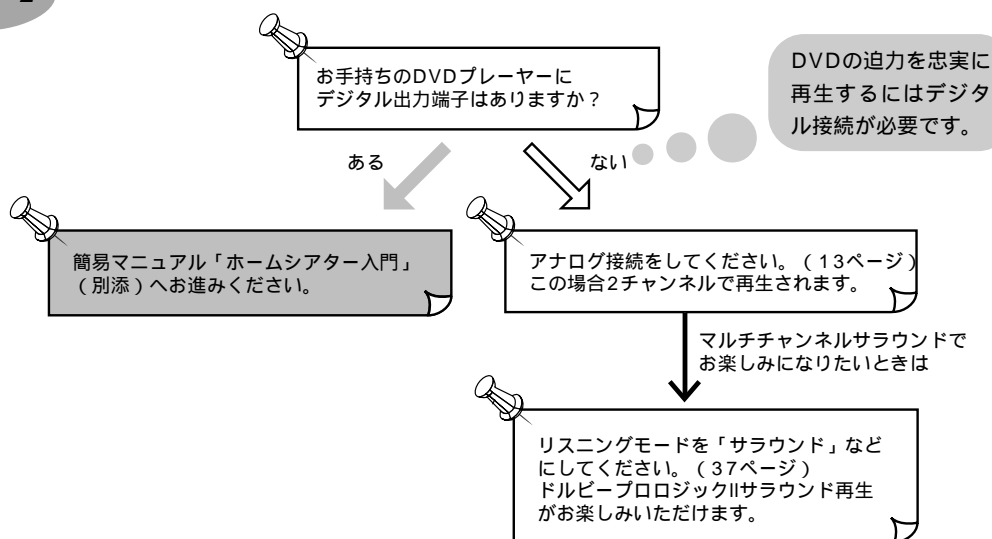
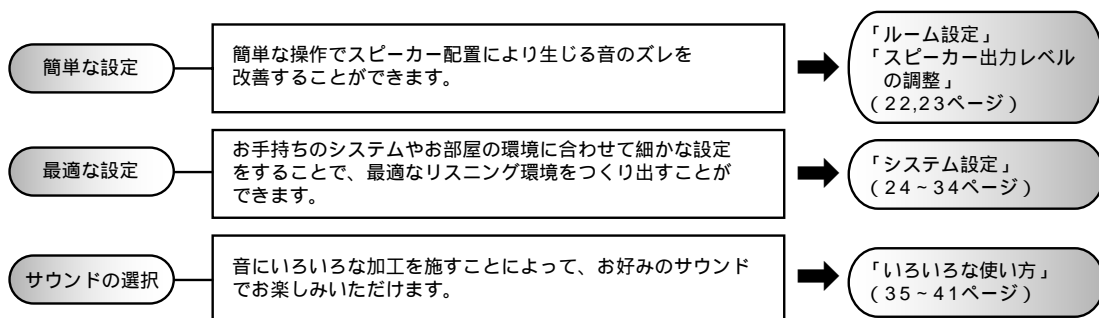
本製品は、待機時（スタンバイ時）消費電力を1W以下に抑えた設計となっております。

# この取扱説明書の利用のしかた

## STEP1 接続する（取扱説明書を見ながらの細かい設定はSTEP3をご覧ください。）

本機は各初期設定項目がご購入時、既に以下のように設定されていますので、各機器（DVDプレーヤー、スピーカー、テレビ）と接続するだけで簡単に音を出すことができます。

- スピーカーの設定(24～25ページ)　：自動設定
- 入力　：「DVD」
- アナログ/デジタル信号の切り換え（21ページ）：「オート」(デジタル優先)
- リスニングモード(35ページ)　：「オート」
- サウンドモード(38ページ)　：「ナチュラル」

## STEP2 DVDを使ったホームシアターの楽しみ方を知りたいときは、、、

## STEP3 より快適なホームシアターを楽しむためには、、、

## STEP4 ご覧になりたいページを早く見つけるために、、、

「もくじ」(➡5ページ)、「目的別索引」(➡55ページ)、「各部の名称とはたらき」(➡9ページ)、「索引」(➡56ページ)、「思った通りに動かないときは」(➡51ページ)、などもご活用ください。

# もくじ

とりあえず音を出してみたいときは、まずはじめに別添の「ホームシアター入門」をご覧ください。

## お使いになる前に

お使いになる前に



## 各部の名称とはたらき

各部の名称とはたらき



## 接　続

接続



## 基本的な使い方

基本操作



## サラウンドに関する設定

設定



## いろいろな使い方

応用操作



## リモコンの使いこなし

リモコンの使いこなし



## その他

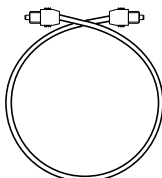
その他

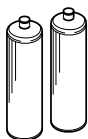
# お使いになる前に

## 付属品の確認

箱から出したら次の付属品がそろっているかを確認してください。

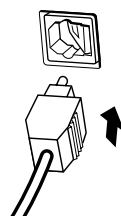
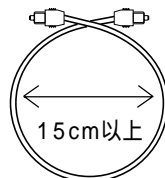
- 電源コード

- 光デジタルケーブル（1本）

- リモートコントロールユニット（リモコン）

- 単3形乾電池（R6P・2本）

- スピーカーコードラベル

- 保証書
- 安全上のご注意
- ご相談窓口・修理窓口のご案内
- 取扱説明書（本書）
- ホームシアター入門（簡易マニュアル）

### 光デジタルケーブルの取り扱い上の注意

- 急な角度に折り曲げないでください。保管するときは、直径が15cm以上になるようにしてください。
- 接続の際は端子の向きを合わせてしっかり奥まで差し込んでください。誤った向きでむりやり挿入すると、端子が変形し、ケーブルを抜いてもシャッターが閉らなくなることがあります。

- 長さは3m以下のものを使用してください。
- プラグにホコリが付着したときは、柔らかい布で拭いてから接続してください。

## 設置について

設置については次のような事項に注意してください。

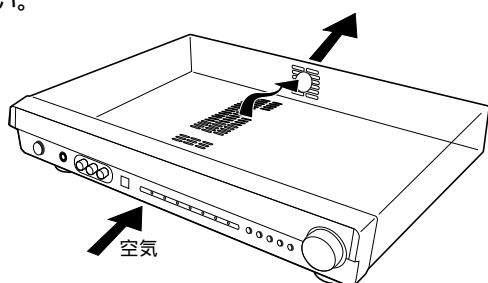
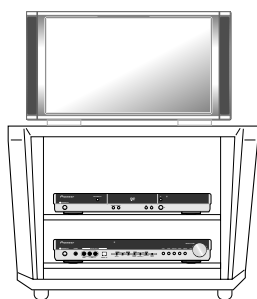
### 設置する場所について

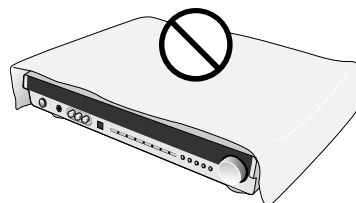
振動や衝撃が加わらない、水平で安定した場所に設置してください。以下のような場所の設置は避けてください。

- テレビやカラーモニターの上
  （映像が乱れたり、歪んだりすることがあります。＊1）
- カセットデッキなどのそば
  （カセットデッキなど、磁気の影響を受けやすい機器を本機のそばで使用すると雑音などを発生する場合があります。＊1）
- 直射日光のあたる所
- 湿気の多い所や風通しの悪い所
- 極端に暑い所や寒い所
- 振動のある所
- ホコリの多い所
- 油煙、蒸気、熱のあたる所（台所など）

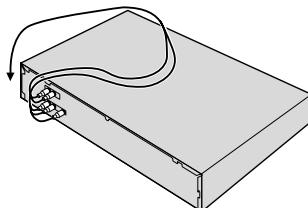
＊1　これは、アンプのトランスによるリーケージフラックス（漏れ磁束）の影響によるものです。このようなときは、設置する場所を変えるか、これらの機器を本機から離して設置してください。

## 放熱について

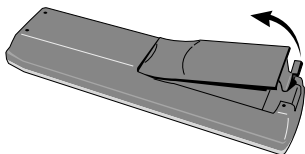
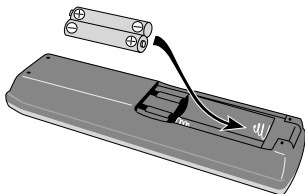
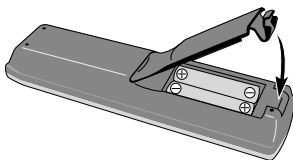
- 本機は下面の孔から空気を取りこみ、放熱用ファンを使って後面と左面の放熱孔から放熱する設計になっております。**本機の下には布などを敷かないでください。また後面、左面ともに十分なスペースをとってください。ラック等に設置する場合は放熱のため、後部が開放されているラックを使用するなど、通風を妨げないようにしてください。**また、放熱孔がホコリでふさがれてしまうと放熱が十分にされなくなりますのでご注意ください。

- 本機の設置には前面にドアのないラックを使用することをおすすめしますが、ドア付きラックに設置する場合、本機使用中はドアを開けるなど通風を妨げないようにしてください。（ドアを開けてお使いになるときはぶつかってけがなどしないよう、十分お気を付けください。）

- 本機は使用中に熱を発生しますので、本機の上にはパイオニア製のDVDプレーヤー「DV-555」、「DV-545」、「DV-353」以外はのせないでください。

- 本機は使用中に熱を発生しますので、インテリア用などの布をかぶせた状態でのご使用はお止めください。

- 放熱が十分にされないと「HEAT UP」、「OVER HEAT」といった警告メッセージが点滅表示される場合があります。「HEAT UP」に対する症状や対応については54ページを、「OVER HEAT」に対する症状や対応については52ページをご覧ください。
- 本機使用中または使用直後は上面が熱くなっている場合がありますのでご注意ください。

## 接続コードの状態

下図のように、本機の上に接続コードを曲げて放置すると、電源トランスからの磁界の影響により、スピーカーからハムノイズが出る場合があります。接続コードはこのような状態にしないでください。

# リモコンの準備と予備知識

## リモコンに乾電池を入れる

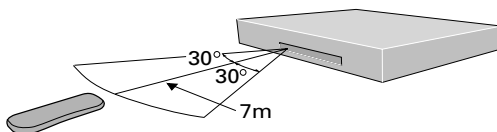
**1 裏ブタのタブを押しながら矢印の方向へ開く**

**2 ケース内に表記されている極性⊕（プラス）/⊖（マイナス)を合わせて、乾電池を正しく入れる**

**3 フタを矢印の方向に閉める**

**お知らせ**

- 電池を交換する際は、なるべく5分以内に交換することをおすすめします。5分以内に交換しないと、プリセットコードが解除される可能性があります。プリセットコードが解除されてしまった場合は、再度プリセットコードを設定してください。(43～44ページ)
- リモコンの操作範囲が極端に狭くなってきたら、電池を交換してください。

**ご注意:**

- 新しい乾電池と一度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池は同じ形状でも電圧の異なるものがあります。種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 長い間（1ヵ月以上）リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐため、乾電池を取り出してください。もし、液漏れを起こしたときは、ケース内についた液をよく拭きとってから新しい乾電池を入れてください。
- 不要になった電池を廃棄する場合は、各地の地方自治団体の指示(条例)に従って処理してください。

## リモコンの操作範囲

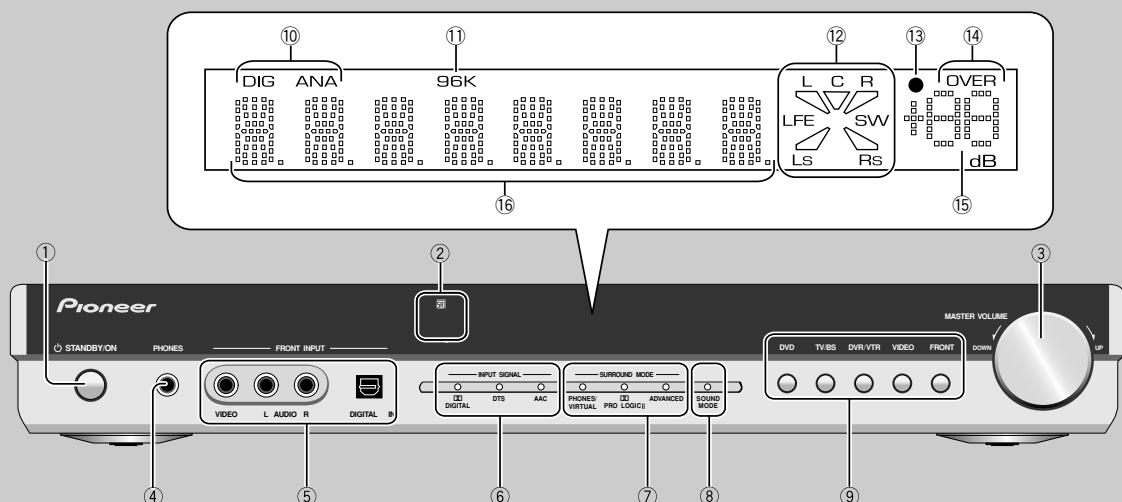
本機をリモコンで操作するときは、リモコンをフロントパネルのリモコン受光部に向けてください。下記の範囲内で操作することができます。

**お知らせ**

- リモートコントロールと本機との間に障害物があったり、リモコン受光部との角度が悪いと操作ができない場合があります。
- リモコン受光部に直射日光や蛍光灯などの強い光が当たると誤動作することがあります。
- 赤外線を発射する機器の近くで本機を使用したり、赤外線を利用したほかのリモコン装置を使用したりすると、本機が誤動作することがあります。逆にこのリモコンを操作すると、他の機器を誤動作させることもあります。

**ご注意:**

- 後面のコントロール入力端子に、他の機器が接続されているときは、リモコンを本機に向けても操作はできません。リモコンを向けたい機器のコントロール入力端子には何も接続しないでください。(18ページ)

# 各部の名称とはたらき

## 前面部

① ⏻ **STANDBY/ONボタン**
本機を使用するときは最初にこのボタンを押して電源を入れてください。

② **リモコン受光部**
リモコン信号を受光します。

③ **音量調節ノブ（MASTER VOLUME）**
本機の音量を調節します。

④ **ヘッドホン端子（PHONES）**
ヘッドホンプラグを差し込む端子です。プラグを差し込んでいるときは、スピーカーから音は出力されません。

⑤ **フロント入力端子（FRONT INPUT）**
ポータブルDVDプレーヤーやゲーム機 、ビデオカメラなどと接続します。DIGITAL IN端子は接続する機器が光デジタル出力端子を持っているときに接続します。カバーをはずしてご使用ください。（➡15ページ）

⑥ **INPUT SIGNALインジケーター**
デジタル機器からの入力信号の種類を示します。

**DD DIGITAL**　：ドルビーデジタル信号を再生しているときに点灯します。

**DTS**　：DTS信号を再生しているときに点灯します。

**AAC**　：MPEG-2 AAC信号を再生しているときに点灯します。

⑦ **SURROUND MODEインジケーター**
本機が再生しているデコードの種類を示します。

**PHONES/VIRTUAL**：「ヘッドホンサラウンド」または「バーチャル」モードを選択しているときに点灯します。

**DD PRO LOGICII**：ドルビープロロジックII 処理が行われているときに点灯します。

**ADVANCED**　：「アドバンスド」モードを選択しているときに点灯します。

⑧ **SOUND MODEインジケーター**
「サウンドモード」を選択しているときに点灯します。

⑨ **入力切換ボタン**
入力機器を選びます。

⑩ **音声入力切換インジケーター**
**DIG**：デジタル音声信号が選択されているときに点灯します。
**ANA**：アナログ音声信号が選択されているときに点灯します。

⑪ **96kHz信号入力インジケーター**
96 kHzリニアPCM信号を再生しているときに点灯します。

⑫ **フォーマットインジケーター** **（➡20ページ）**
SW　音が出ているスピーカーの部分が点灯します。

L C R LFE SW Ls Rs　本機が入力（再生）している圧縮音声のフォーマットを表示します。

リスニングモードやスピーカーの設定、入力コンテンツなどによっては点灯するインジケーターが入力信号と異なることがあります。

⑬ **スリープタイマーインジケーター**
スリープタイマーを設定すると点灯します。

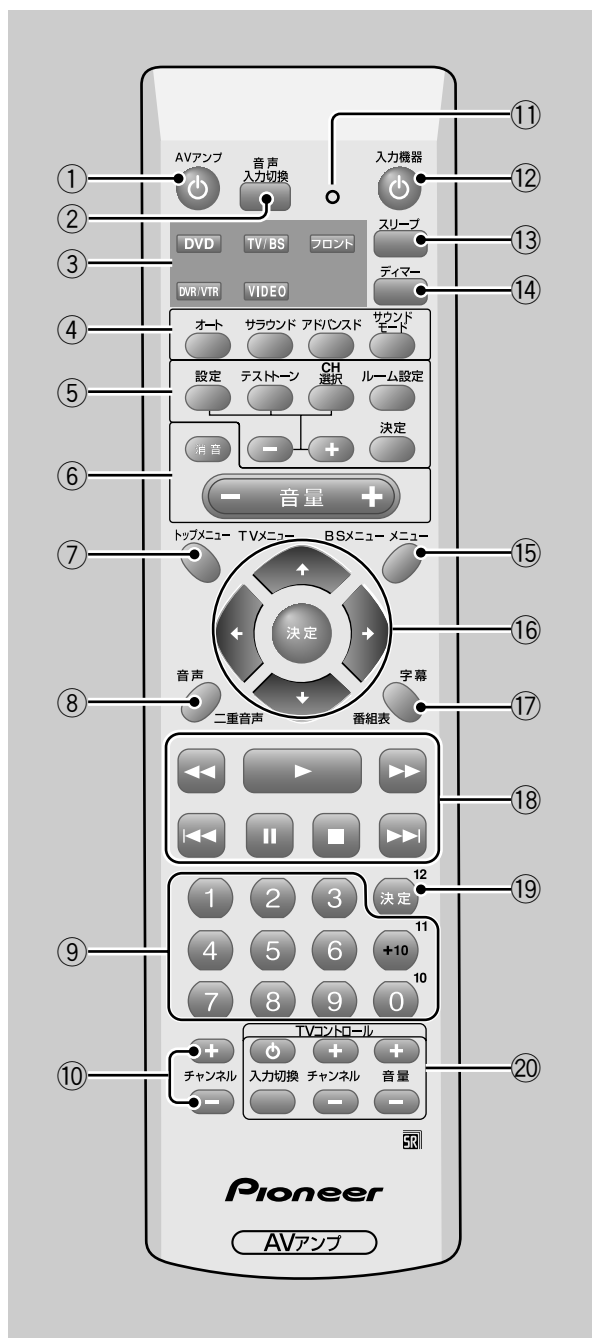
⑭ **OVER インジケーター**
アナログ入力信号のレベルが高すぎるときに点灯します。点灯するときは「インプットアッテネータの設定」（➡27ページ）をご覧ください。

⑮ **VOLUME（音量レベル）表示部**
現在の主音量レベルを表示します。音量レベルは、電源がオフにされても保持されています。－－ －dBで最小レベルを表わし、0 dBで最大レベルを表わします。

⑯ **キャラクター表示部**

# 各部の名称とはたらき

## リモコン

付属のリモコンでは、リモコンの操作モードを切り換えることによって、本機以外のパイオニア製品や他社の機器を操作することもできます。
他機器の操作について、詳しくは45ページをご覧ください。

① **AVアンプ ⏻ ボタン**
本機の電源を入れたり、スタンバイモードにするときに押します。

② **音声入力切換（21ページ）**
音声入力をデジタル、アナログまたはAUTO（デジタル優先）のいずれかに切り換えます。

③ **リモコン切換ボタン 兼 入力直接選択ボタン（19、42、43ページ）**
リモコンの操作モードと本機の入力を同時に切り換えます。

④ **リスニングモード切換ボタン（35～38ページ）**
**オート：**入力信号の音声フォーマットに合わせて、ステレオモードと5.1chデコードモードを自動で切り換え、ソフトに忠実な再生を行います（CDなど2chで収録されたソフトは2chで、映画などマルチチャンネルで収録されたソフトはマルチチャンネルサラウンドで再生します）。サラウンド、アドバンスドモードを解除するときにも使用します。
**サラウンド：**サラウンドの種類を切り換えます。
**アドバンスド：**パイオニアオリジナルサラウンドの種類を切り換えます。
**サウンドモード：**サウンドモードの種類を切り換えます。

⑤ **オーディオセットアップボタン（22～34ページ）**
**設定：**システム設定を行うときに使います。
**テストトーン：**テストトーンを使って各チャンネルのスピーカーレベルを調整するときに使います。
**CH選択：**テストトーンを使わずに、手動でチャンネルを切り換えて各チャンネルのスピーカーレベルを調整するときに使います。
**ルーム設定：**「S」、「M」、「L」の3つのタイプの中から1つを選択します。スピーカー配置により生じる音のズレを簡単に改善することができます。
**－/+：**システム設定を行うときに使います。また、スピーカーレベル（CHレベル）の調整モードで各チャンネルのスピーカーレベルを調整します。
**決定：**ルーム設定を決定するときに使います。また、システム設定を中止するときにも使用します。

⑥ **音量調整ボタン（19ページ）**
**音量 ー／+：**本機の音量を調節します。
**消音：**音を一時的に消します。もう一度押すと消音機能は解除され元の音量に戻ります。

⑦ **トップメニューボタン**
リモコン切換ボタンがDVDの操作モードのとき、DVDのトップメニューを表示するときに使います。

⑧ **音声ボタン**
リモコン切換ボタンがDVDの操作モードのときに、DVDディスクに記録されている音声を選択するときに使います。

⑨ **数字ボタン**
CDやDVDなどのトラックナンバーやチャプター、テレビのチャンネルなどの選択に使います。
テレビのチャンネル選択の場合、0ボタンは10チャンネルを、+10ボタンは11チャンネルを選択します。

⑩ **チャンネル+／ーボタン**
BSデジタルチューナーやビデオ機器などのチャンネルを選択するときに使います。

⑪ **LEDインジケーター**
リモコンから信号を発信しているときに点灯します。

⑫ **入力機器 ⏻ ボタン**
入力機器の電源をONまたはOFF（スタンバイ状態）にします。

⑬ **スリープボタン（40ページ）**
本機でスリープタイマーを設定するときに使います。
スリープタイマー90分、60分、30分、OFFの中から選択します。

⑭ **ディマーボタン（39ページ）**
表示部の明るさを4段階で調整します。

⑮ **メニューボタン**
リモコン切換ボタンがDVDの操作モードのとき、DVDのメニュー画面を表示するときに使います。

⑯ **⇧/⇩/⇦/⇨/決定ボタン**
各種設定で項目を選択したり、決定するときに使います。

⑰ **字幕ボタン**
リモコン切換ボタンがDVDの操作モードのとき、DVDディスクに記録されている字幕を選択するときに使います。

⑱ **DVD操作ボタン**
リモコン切換ボタンがDVDの操作モードのとき、DVDプレーヤーを以下のように操作することができます。
◀◀ ：押し続けると早戻し再生します。
▶ ：再生します。
▶▶ ：押し続けると早送り再生します。
I◀◀ ：再生中のトラックの頭に戻ります。繰り返し押すとさらに前のトラックへ戻ります。
II ：再生を一時停止します。
■ ：再生を停止します。
▶▶I ：次のトラックの頭に進みます。繰り返し押すとさらに次のトラックへ進みます。

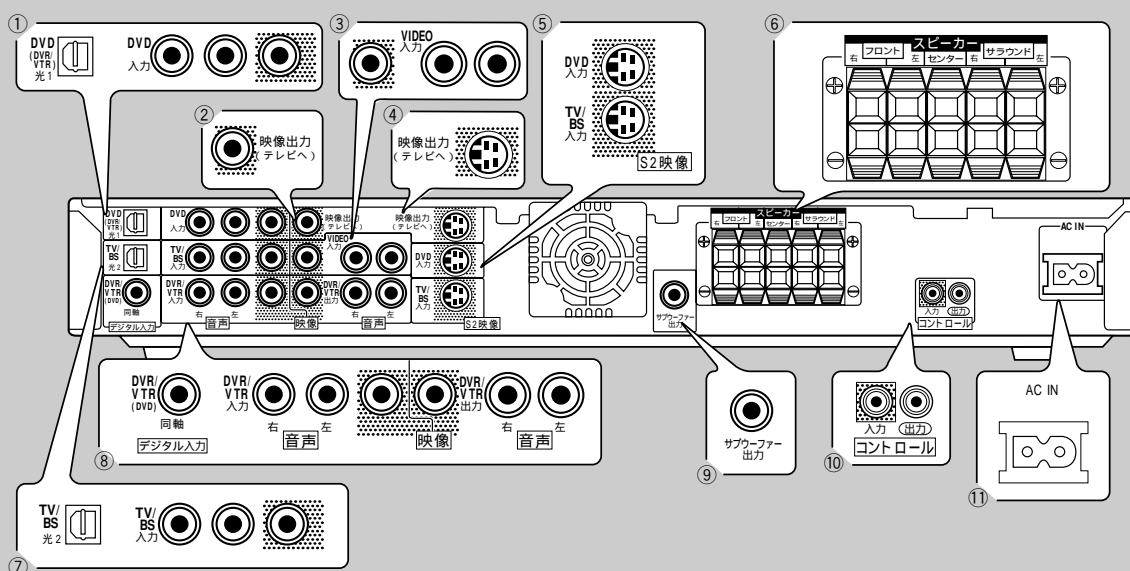
⑲ **決定ボタン**
BSデジタル放送などのチャンネルを決定するときに使います。
テレビのチャンネル選択の場合は12チャンネルを選択します。

⑳ **TVコントロールボタン**
テレビを操作するボタンです。リモコンがテレビ以外の他機器の操作モードになっていてもTVコントロールボタンはテレビの操作を行うことができます。
お手持ちのテレビをこれらのボタンで操作するには、お手持ちのテレビのプリセットコードをTVコントロールボタンに割り当ててください（➡43～44、46ページ）。

**⏻：**テレビの電源をONまたはOFF（スタンバイ状態）にします。

**入力切換：**テレビの入力を切り換えます。
**チャンネル+/ー：**テレビのチャンネルを切り換えるときに使います。
**音量+/ー：**テレビの音量を調節するときに使います。

# 各部の名称とはたらき

## 後面部

① **DVD入力端子**
DVDプレーヤーなど、光デジタル出力端子を持つデジタル機器と接続することができます。（①DVD入力端子は⑤DVD S2映像入力端子と連動します。）
また、光デジタル端子（光1）は「同軸デジタル端子と光デジタル端子（光1）の入力切換設定」（➡27ページ）で入力をDVR/VTRにすることができます。

② **映像出力端子**
①、③、⑦、⑧およびフロント入力の映像入力端子に入力された信号を出力します。

③ **VIDEO入力端子**
ライン入力端子で、アナログ機器のライン出力端子と接続します。

④ **S2映像出力端子**
⑤のS2映像入力端子に入力された信号を出力します。

⑤ **DVD S2映像入力端子**
①に接続した機器のS2映像出力端子と接続することができます。（DVD S2映像入力端子は①DVD入力端子と連動します。）

**TV/BS S2映像入力端子**
⑦に接続した機器のS2映像出力端子と接続することができます。（TV/BS S2映像入力端子は⑦TV/BS入力端子と連動します。）

⑥ **スピーカー端子**
各チャンネル用のスピーカーと接続します。

⑦ **TV/BS入力端子**
BSデジタルチューナーなど、光デジタル出力を持つデジタル機器と接続することができます。（TV/BS入力端子は⑤TV/BS S2映像入力端子と連動します。）

⑧ **DVR/VTR入力端子**
ライン入力端子で、録画（録音）再生機器のアナログ出力端子と接続します。同軸デジタル出力を持つデジタル機器とも接続することができます。
また、同軸デジタル入力端子（同軸）は「同軸デジタル端子と光デジタル端子（光1）の入力切換設定」（➡27ページ）で入力をDVDにすることができます。

**DVR/VTR出力端子**
ライン出力端子で、録画（録音）再生機器のアナログ入力端子と接続します。

⑨ **サブウーファー出力端子**
パワーアンプ内蔵型サブウーファーと接続します。

⑩ **コントロール入・出力端子**
コントロール端子の付いた複数のパイオニア製品を1つの機器のリモコン受光部を使って、集中コントロールするための端子です。（➡18ページ）

⑪ **ACインレット （AC IN）**
電源コードを接続します。

# DVDプレーヤー/TVの接続

**機器の接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。**

**ドルビーデジタル、DTS信号を再生するにはデジタル接続が必要です。また、光デジタル端子に接続せずに同軸デジタル端子に接続するときは設定が必要です（➡27,34ページ）。**

**DVDプレーヤー（DV-555など）**

テレビとDVDプレーヤーの両方にS映像端子が付いている場合は、S映像端子を使用して本機と接続するとより鮮明な画像を再生できます。

デジタル音声出力　光　同軸

音声出力　右　左

映像出力　S

市販の音声ケーブル（アナログ音声接続）

市販の映像ケーブル

市販の同軸デジタルケーブル

付属の光デジタルケーブル（急な角度に折り曲げないでください。）

端子の向きを合わせて差し込んでください

市販の映像ケーブル

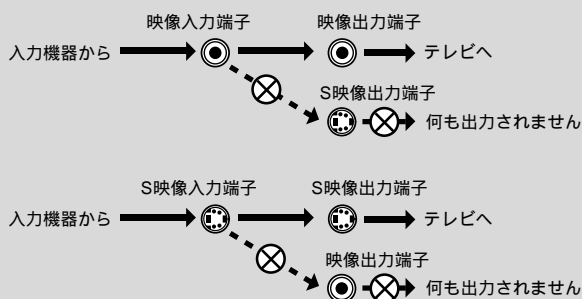
次の場合はアナログ音声接続が必要です。
- DVDプレーヤーにデジタル出力端子がない場合
- 聴きたい信号がDVDプレーヤーの光デジタル出力端子から出力できないとき
- DVDプレーヤーからの信号をDVR/VTR出力端子から出力したいとき
- DVDまたはLDプレーヤーでカラオケ用のマイク音声を出力したいとき

市販の音声ケーブル

アナログ出力　映像入力

テレビ放送を本機を通して楽しみたいとき

**テレビ**

テレビとの接続で映像信号は各入力機器と同じタイプのコードを使用してください。S2映像入力端子に入力された信号はS2映像出力端子からのみ出力され、映像入力端子に入力された信号は映像出力端子からのみ出力されます。

ただしテレビによっては、S映像入力と映像入力の両方を接続していると、信号の有り無しに関わらず常にS映像入力が優先され、本機と映像入力端子でのみ接続している機器の映像を見ることができない場合があります。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

# BSデジタルチューナーの接続

## チューナーのみのとき

**MPEG-2 AAC信号を再生するには光デジタル接続が必要です。**

市販の映像ケーブル

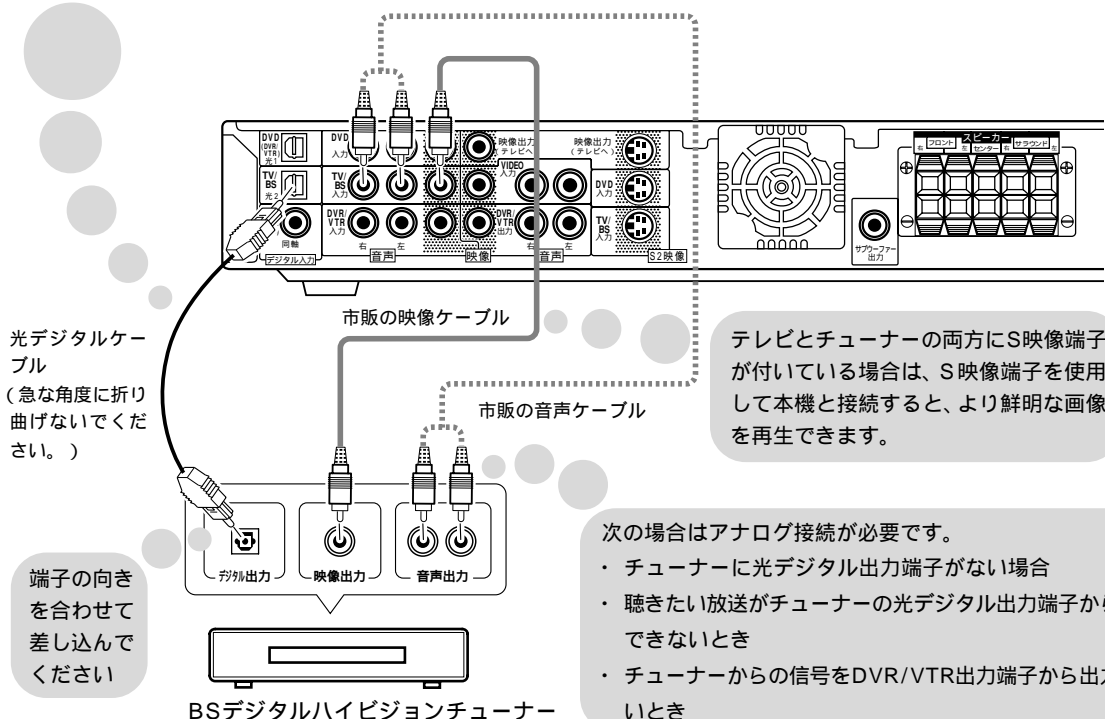
光デジタルケーブル
（急な角度に折り曲げないでください。）

市販の音声ケーブル

テレビとチューナーの両方にS映像端子が付いている場合は、S映像端子を使用して本機と接続すると、より鮮明な画像を再生できます。

デジタル出力　映像出力　音声出力

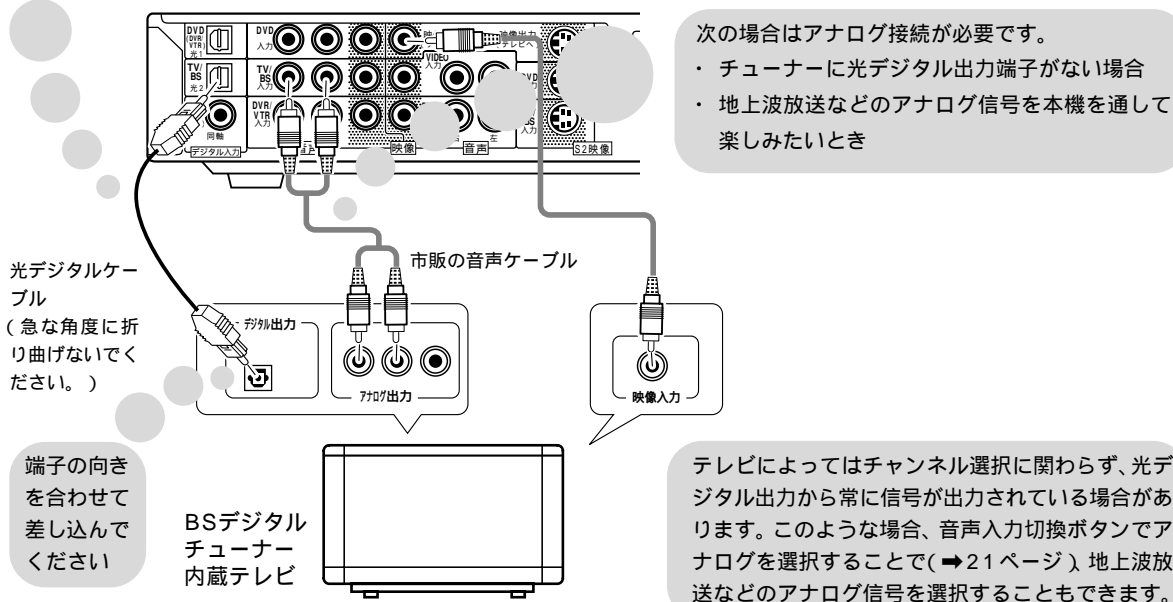
端子の向きを合わせて差し込んでください

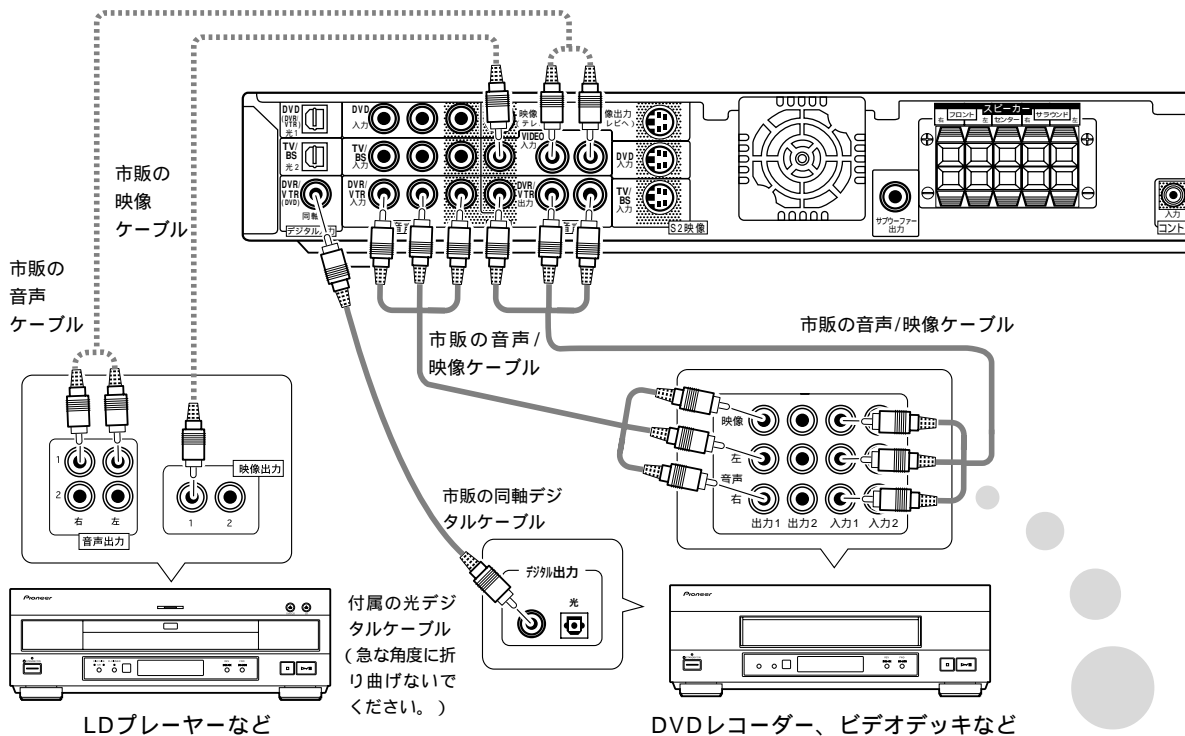
**BSデジタルハイビジョンチューナー**

次の場合はアナログ接続が必要です。
- チューナーに光デジタル出力端子がない場合
- 聴きたい放送がチューナーの光デジタル出力端子から出力できないとき
- チューナーからの信号をDVR/VTR出力端子から出力したいとき

## テレビに内蔵されているチューナーのとき

**MPEG-2 AAC信号を再生するにはデジタル接続が必要です。**

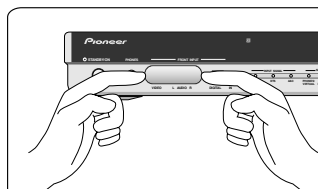
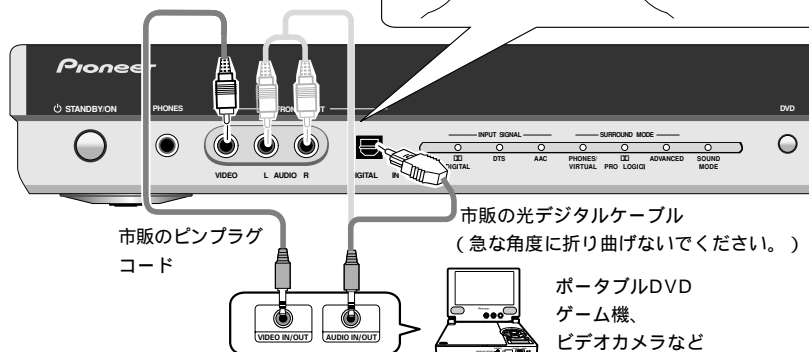
次の場合はアナログ接続が必要です。
- チューナーに光デジタル出力端子がない場合
- 地上波放送などのアナログ信号を本機を通して楽しみたいとき

テレビによってはチャンネル選択に関わらず、光デジタル出力から常に信号が出力されている場合があります。このような場合、音声入力切換ボタンでアナログを選択することで（➡21ページ）、地上波放送などのアナログ信号を選択することもできます。

# ビデオ機器の接続 （DVDレコーダー、LDプレーヤー、ビデオデッキ、ビデオカメラなど）

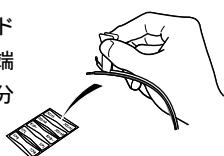
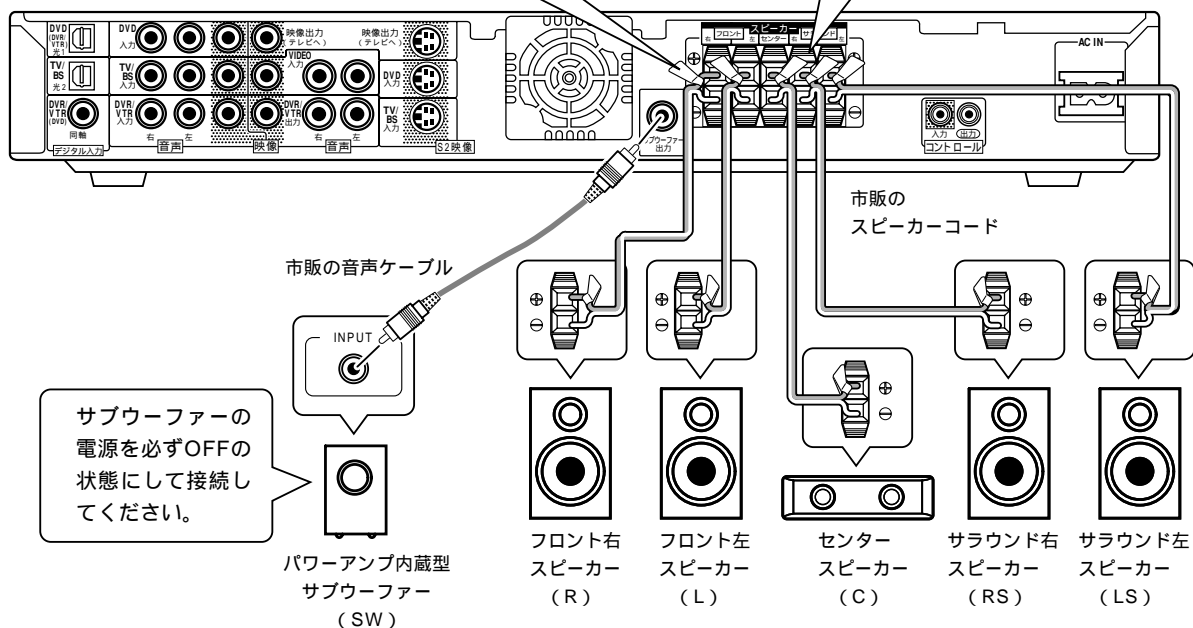
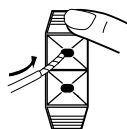
**機器の接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。**

**DVR/VTR出力端子を通して本機を録画（録音）用のセレクターとして使用するには**

DVR/VTR出力端子からは、デジタル接続の有無に関わらず、各映像入力端子に入力された映像信号と、各音声入力端子に入力された音声信号が、そのまま何の加工もされずに出力されます（リスニングモードなどの本機の各機能の効果も同様に盛り込まれません）。入力機器と本機を、同軸デジタルケーブルやS映像ケーブルだけで接続している場合は、映像ケーブルや音声ケーブルでも接続してください。

## ■ 本機前面

**まずはじめに、本体前面のフロント端子カバーをはずしてください。**

# スピーカーの接続

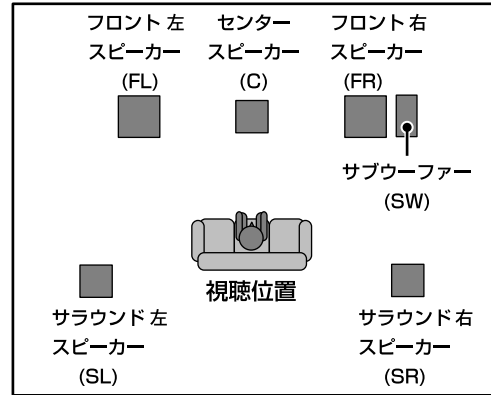
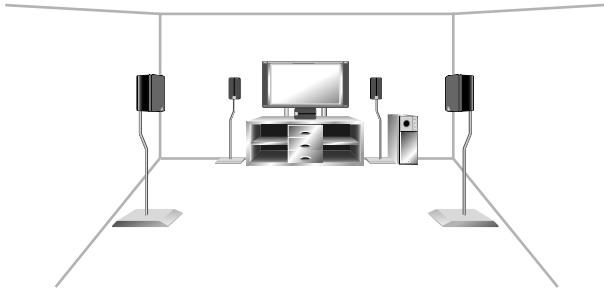
**機器の接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。**

・ スピーカーは公称インピーダンスが6Ω～16Ωのものを使用してください。
・ 本機とスピーカーの⊕端子および⊖端子どうしを正しく接続してください。



**ご注意:**

スピーカーコードの芯線をよじるときは、ばら線が束からはみ出さないように注意してよじってください。はみだした線があると、その線が隣りのチャンネルのスピーカーコードやリアパネル（後面の金属部分）にショート（接触）し、本機の電源が入らない場合があります。

## スピーカーの配置

サラウンド効果を最大限に引き出すため、下図のようにスピーカーを配置してください。

### お知らせ

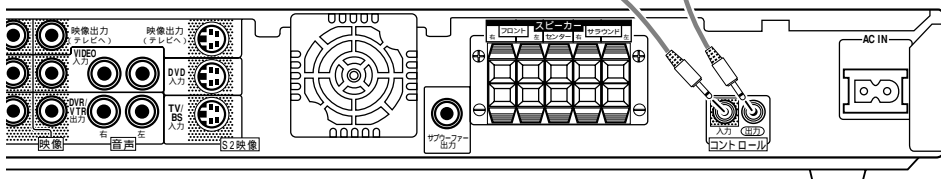
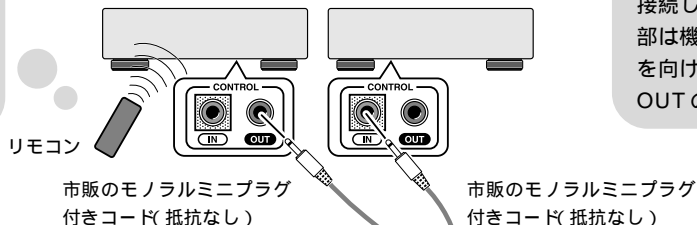
- 左右のスピーカーはテレビから等距離になるように設置してください。
- テレビの近くに設置するスピーカーは、テレビが色ずれ等を起こすのを防止するため、防磁型のものを使用してください。防磁型でない場合は、テレビから離して設置してください。
- センタースピーカーはテレビの上側または下側に置き、センターチャンネルの音がテレビと同じ位置に配置されるようにしてください。
- サラウンドスピーカーは耳の高さからやや上方に設置すると効果的です。
- サラウンドスピーカーをフロントスピーカーとセンタースピーカーから極端に離して設置すると、サラウンド効果が十分に発揮されません。
- サブウーファーは前方で、フロントスピーカーまでの距離と等距離になる位置に置くことをおすすめします。

**ご注意:**

センタースピーカーをテレビの上に置くときは、適切な方法で固定してください。固定しないと地震などの外部の振動により、スピーカーがテレビから落下してケガをしたり、スピーカーを破損する原因となります。

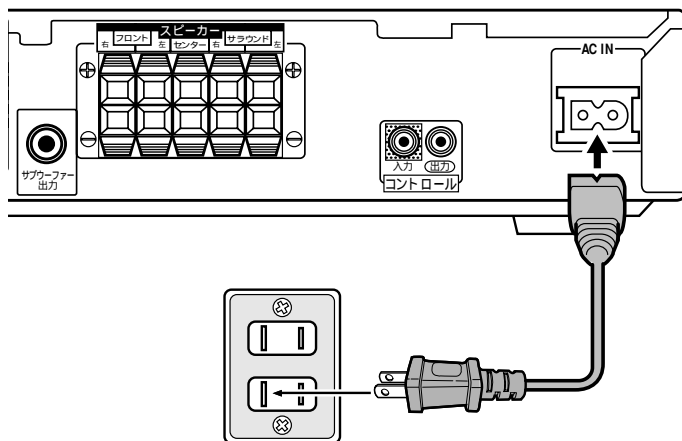
# コントロール入・出力コード/電源コードの接続

## コントロール入・出力コードの接続

コントロール端子の付いたパイオニアの複数の機器を1つの機器のリモコン受光部を使って集中コントロールすることができます。コントロール入・出力端子を接続すると、リモコン受光部を持たない機器や、リモコン受光部が信号を受けられないところに設置した機器もリモコンで操作することができます。

**ご注意:**

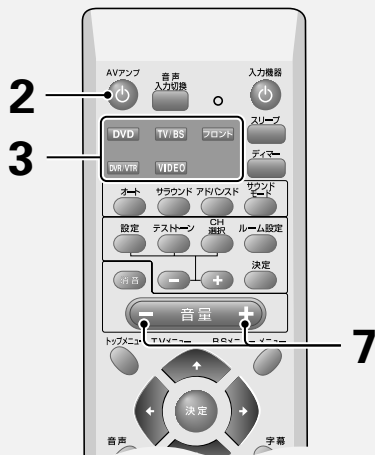
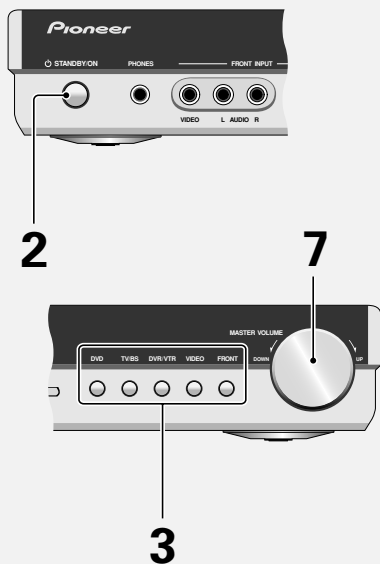
- 接続には市販のモノラルミニプラグ付きコード（抵抗なし）をお使いください。
- コントロール端子の接続をする場合は、必ず音声ケーブルまたは映像ケーブルの接続もしてください。光デジタル接続だけでは、システムコントロールは正しく動作しません。

## 電源コードの接続

すべての接続が終了してから、一番最後に本機のAC INソケットと壁の電源コンセントを、付属の電源コードで接続してください。

**ご注意:**

- 本機の電源コードは着脱式になっておりますが、付属（電源容量 7A、2P プラグインソケット方式）以外の電源コードは使用しないでください。
- 旅行などで長期間本機を使用しない場合は、必ず電源コンセントから電源コードを抜いておいてください。

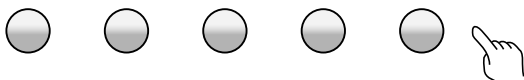
# 基本的な使い方

## 基本再生

**1** **TV、入力機器（DVDプレーヤーなど）、サブウーファーの電源を入れる。**

**2**

**本体の ⏻ STANDBY/ONボタンを押して本機の電源を入れる。**

表示部に入力名（DVDなど）が表示されることを確認してください。

**3** **入力を選択する。**

- リモコンの入力直接選択ボタンを押すと、入力と共にリモコンの操作モードも切り換わります。

**4** **テレビの設定をする。**

画面に、本機からの出力映像が映し出されるようにテレビの入力切り換えをしてください。（テレビ放送を楽しむときはこの操作をする必要はありません）

**5** **入力機器の設定をする。**

DVDプレーヤーなどの場合、デジタル出力信号の設定が必要な場合があります。（詳しくは次ページの「入力機器の設定確認」をご覧ください。）

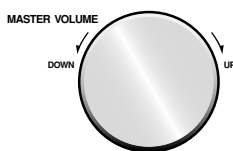
**6** **入力機器の再生を開始する。**

各インジケーターが点灯します。

**7**

**音量を調整する。**

–––dB（最小）～0dB（最大）の間で調整できます。

音が出ないときは、別添の「ホームシアター入門」の「それでも音が出ないスピーカーがあるときは、、」をご覧ください。

## 映像出力信号について

**テレビや入力機器にS映像端子が付いている場合は、S映像端子を使用して本機と接続すると、より鮮明な画像を再生できます。**

その際、テレビとの接続は入力機器と同じタイプのコードを使用してください。S2映像入力端子に入力された信号はS2映像出力端子からのみ出力され、映像入力端子に入力された信号は映像出力端子からのみ出力されます。

**ご注意:**
- テレビによっては、S映像入力と映像入力の両方を接続していると、信号の有り無しに関わらず常にS映像入力が優先され、本機と映像入力端子でのみ接続している機器の映像を見ることができない場合があります。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

## 入力機器の設定確認

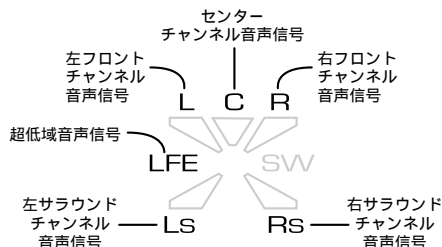
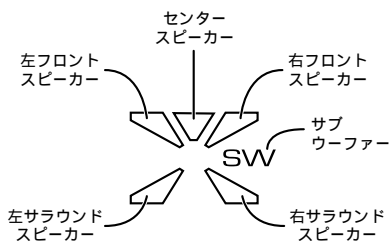
**入力機器側で、次の2つの項目が正しく設定されていないと「音が出ない」、「音に迫力がない」などの症状が起こることがあります。各入力機器または各ソフトの説明書を見てご確認ください。**

1. **入力機器のデジタル出力**
   入力機器側に以下の信号のデジタル出力設定がある場合、出力されるように設定してください。
   - ドルビーデジタル（➡47ページ）
   - DTS（➡47ページ）
   - MPEG-2 AAC（BSデジタル）（➡47ページ）
   - 96 kHz PCM（➡47ページ） :2チャンネルステレオ信号

2. **再生ソフトの音声の確認**
   再生ソフトや放送が複数の音声を持つ場合、必要に応じてお聴きになりたい信号を選択してください。選んだ信号の種類やリスニングモードの選択(➡35ページ)に応じて音の出るスピーカーが変わります。

**ご注意:**
- プレーヤーまたはソフトによっては 2 チャンネルステレオ信号（アナログ信号や PCM 信号など）以外は出力できないことがあります。そのような信号を本機に入力し、マルチチャンネルサラウンドでお楽しみ頂くためには、リスニングモードを「サラウンド」などに切り換える必要があります。（➡35 ～ 37 ページ）

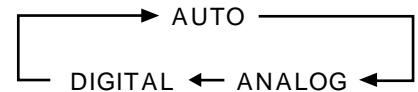
## フォーマットインジケーターについて

本機ディスプレイにあるフォーマットインジケーターにおいて、再生可能なスピーカー、入力している圧縮音声信号を確認することができます。これらを確認することで、どのスピーカーから音が出る設定になっているか、どのチャンネルに圧縮音声信号が入力されているかが一目でわかり、現在の再生状態がわかります。

## アナログ／デジタル信号の切り換え

本機ではアナログとデジタルの入力信号を切り換えることができます。この入力信号を切り換えるにはリモコンの音声入力切換ボタンを使用します。工場出荷時は「AUTO」に設定されています。

**1**

**再生したい入力信号を選ぶ**

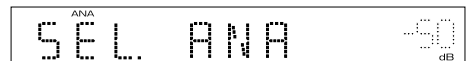
ボタンを押すたびに、以下のように切り換わります。

AUTOにしたときはDIGITAL→ANALOGの優先順位で自動的に入力信号を選択します。

入力信号の切り換えがAUTOのとき

入力信号がANALOGのとき

ANA
SEL ANA
-50 dB

入力信号がDIGITALのとき

DIG
SEL DIG
-50 dB

デジタル接続をしているのに、DIGITALが選択できないときは以下の原因が考えられますのでご確認ください。

- 入力機器の電源が入っていない。
- 入力機器側でデジタル出力が OFF に設定されている。
- デジタル出力信号が出ないソフトを再生している。（詳しくは入力機器の取扱説明書などでご確認ください。）

### お知らせ

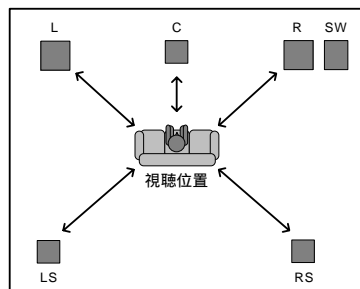
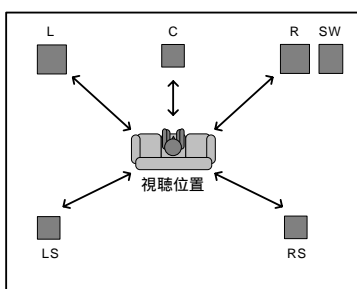
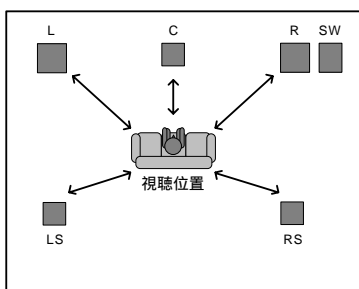
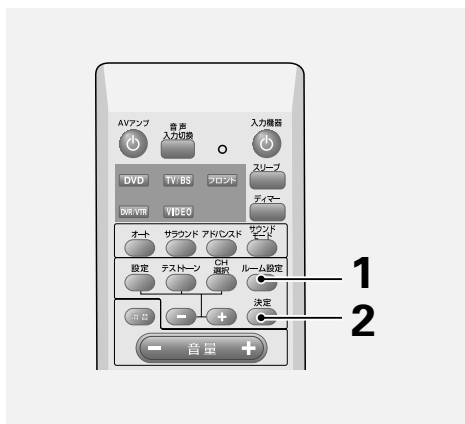
- カラオケ機器のマイク音声、およびアナログオーディオのみ収録されているDVDまたはLDの音声はデジタル出力からは出力されません。必ず音声入力切換で ANALOG を選択してください。
- 本機は、ドルビーデジタル、PCM（32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、96 kHz）、DTS、MPEG-2 AAC のデジタル信号にのみ対応しています。これ以外のデジタル信号は再生できませんので、その場合はアナログ接続して音声入力切換ボタンで ANALOG を選択してください。
- 音声入力切換ボタンで ANALOG を選択した状態で DTS 対応のソフトを再生すると、プレーヤーによっては DTS 信号がデコーディングされずにそのまま再生されてしまうため、ノイズが発生します。ノイズの発生を防ぐには、これらの機器をデジタル接続し（13 ページ）、音声入力切換ボタンで DIGITAL を選択してください。
- DVD プレーヤーの機種によっては、DTS 信号を出力しないものがあります。詳しくは、お使いの DVD プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

## ルーム設定

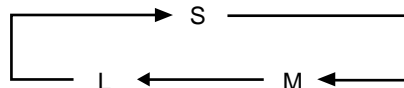
視聴位置のすぐそばにおいたスピーカーと遠いところにおいたスピーカーとでは、そのスピーカーから聴こえる音のタイミングや大きさにズレが生じ、適切なサラウンド効果を得ることができません。「ルーム設定」では、3つのタイプ（S、M、L）の中からご自分の部屋のスピーカー配置に近いタイプを選ぶことにより、ズレを簡単に改善することができます。工場出荷時は「M」に設定されています。

S（サラウンドスピーカーが近いとき）

M（全てのスピーカーがほぼ等距離のとき）

L（サラウンドスピーカーが遠いとき）

S、M、L、各タイプにおける設定値については26ページをご覧ください。

### 1 ルームタイプを選ぶ。

ルーム設定

ボタンを押すたびに以下のように切り換わります。ルームタイプは5秒間点滅表示されます。

ROOM S? -50 dB

### 2 点滅表示中に決定ボタンを押してルームタイプを決定する。

決定

（表示点滅中に押す）

「ENTERED」が2秒間表示され、選んだルームタイプの設定値に切り換わります。

ENTERED

### お知らせ

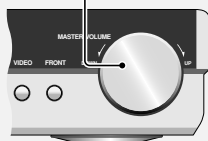
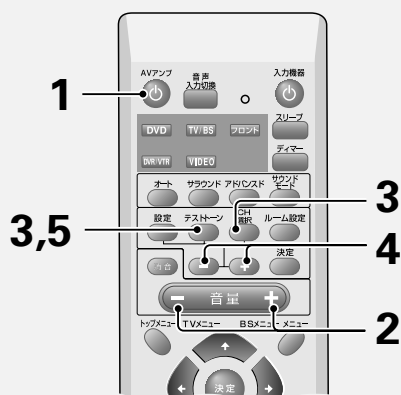
- ルームタイプ設定機能は、実際には以下の項目の設定値を切り換えています。
  - ・各スピーカーまでの距離 (26 ページ)
  - ・各スピーカーの出力レベル (26 ページ)

  これらの項目を更に細かく設定することにより、より快適なサラウンド空間をつくり出すこともできますが、これらの項目の設定と、ルーム設定では、後から行った設定での値が優先されます。
- 現在のルームタイプの設定値を確認したいときは 26 ページをご覧ください。

# サラウンドに関する設定

## スピーカー出力レベル(各チャンネルの音量レベル)の調整

あるスピーカーからの音のみを大きくしたり小さくしたいときに、そのチャンネルのレベルを調整することができます。ここで調整を行った後にルーム設定(➡22ページ)を行うと、選択したルームタイプの設定値(➡26ページ)が優先されます。

**1** 


**本機の電源を入れる。**

**2** **好みの音量に調整する。**



**3** 


**テストトーンボタンを押す。**

テストトーン(ザーという音)がスピーカーの設定(➡24～25ページ)で有りに設定されているスピーカーからのみ以下の順番で出力されます。

フロント左(L) → センター(C) → フロント右(R) → サラウンド右(RS) → サラウンド左(LS) → サブウーファー(SW) →(フロント左(L)へ戻る)

**4** **テストトーンが出力されているチャンネルのレベルを調整する。**

各スピーカーからの音が同じ大きさに聴こえるように調整してください。チャンネルレベルは±10dBの範囲で調整できます。

**5** **テストトーンボタンを押す。**

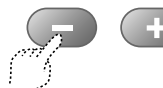
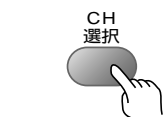


テストトーンが止まり、レベル調整を終了します。

### お知らせ

- 工場出荷時は、各チャンネルとも 0 dB に設定されています。
- CH選択ボタンを押して各チャンネルのレベル調整モードに入った場合、5 秒間なにも操作がないときは調整モードは終了します。
- サブウーファーのテストトーンは、周波数が低いので実際のレベルより小さく聞こえます。
- サブウーファーの調整は音楽や映画ソースなどを実際に使って適切な値に調整してください。
- サブウーファーのレベルはできるだけサブウーファー側で行い、本機での調整は補助としてお使いください。

### お知らせ

- テストトーンを出力せずに実際にソフトを再生している状態からチャンネルレベルを調整したいときは CH 選択ボタンと－ /+ ボタンを使用します。

押すごとに各チャンネルのレベル調整モードになります。(選択できるチャンネルはスピーカーの設定(➡24～25ページ)やリスニングモードの選択(➡37ページ)によってかわります)

選択されたチャンネルのレベルを調整します。

# サラウンドに関する設定

## システム設定

お手持ちのシステムやお部屋の環境に合わせて細かな設定をすると、より快適なリスニング環境をつくり出すことができます。必要に応じて項目を選択し、各種設定、調整を行ってください。

### 設定項目について

#### フロントスピーカーの設定 （➡28ページ）

フロントスピーカーにて低音域を再生するかどうかを設定します。

大(LARGE) ：低音域(100Hz以下)を再生する能力が十分あるスピーカーを接続し、低音域をフロントスピーカーで再生する場合。目安はコーンサイズ(振動板の口径)が約12cm以上です。

小(SMALL) ：低音域を再生する能力がないスピーカーを接続し、フロントチャンネルの低音域は、ほかのスピーカーやサブウーファーで再生する場合。目安はコーンサイズ(振動板の口径)が約12cm未満です。

#### センタースピーカーの設定 （➡29ページ）

センタースピーカーの有り/無し、ならびに低音域を再生するかどうかを設定します。

大(LARGE) ：低音域(100Hz以下)を再生する能力が十分あるスピーカーを接続し、低音域をセンタースピーカーで再生する場合。目安はコーンサイズ(振動板の口径)が約12cm以上です。

小(SMALL) ：低音域を再生する能力がないスピーカーを接続し、センターチャンネルの低音域は、ほかのスピーカーやサブウーファーで再生する場合。目安はコーンサイズ(振動板の口径)が約12cm未満です。

無し(－) ：接続しない場合。センターチャンネルの音声(主にセリフなど)は、ほかのスピーカーで再生されます。

#### サラウンドスピーカーの設定 （➡29ページ）

サラウンドスピーカーの有り/無し、ならびに低音域を再生するかどうかを設定します。

大(LARGE) ：低音域(100Hz以下)を再生する能力が十分あるスピーカーを接続し、低音域をサラウンドスピーカーで再生する場合。目安はコーンサイズ(振動板の口径)が約12cm以上です。

小(SMALL) ：低音域を再生する能力がないスピーカーを接続し、サラウンドチャンネルの低音域は、ほかのスピーカーやサブウーファーで再生する場合。目安はコーンサイズ(振動板の口径)が約12cm未満です。

無し(－) ：接続しない場合。サラウンドチャンネルの音声(主に効果音など)は、ほかのスピーカーで再生されます。

- センタースピーカーとサラウンドスピーカーを共に接続していない場合は、サラウンドモード(➡37ページ)は「ステレオ」か「バーチャル」のみ選択することができます。

本機は、センタースピーカーとサラウンドスピーカー、サブウーファーが接続されているかどうかを自動で検出し、各スピーカーの設定を次ページの表の8つの組み合わせの中から自動で選びます。

| フロントスピーカー | センタースピーカー | サラウンドスピーカー | サブウーファー |
|---|---|---|---|
| 小(S) | 小(S) | 小(S) | 有り(ON) |
| 大(L) | 小(S) | 小(S) | 無し(OFF) |
| 小(S) | 無し(—) | 小(S) | 有り(ON) |
| 大(L) | 無し(—) | 小(S) | 無し(OFF) |
| 小(S) | 小(S) | 無し(—) | 有り(ON) |
| 大(L) | 小(S) | 無し(—) | 無し(OFF) |
| 小(S) | 無し(—) | 無し(—) | 有り(ON) |
| 大(L) | 無し(—) | 無し(—) | 無し(OFF) |

設定モードに入って、一度変更を行うと次回からは変更後の設定が優先されます。ただし、変更後にセンタースピーカーやサラウンドスピーカー、サブウーファーを追加または削除した場合は、電源投入時に再び自動設定を行い、ご自分で行った設定は無効となります。

- センタースピーカーとサラウンドスピーカーを共に接続していない場合は、サラウンドモード(➡37ページ)は「ステレオ」か「バーチャル」のみ選択することができます。

## サブウーファーの設定　(➡30ページ)

サブウーファー(低音域を専門に受け持つスピーカー)の有り/無し、ならびに何Hz以下の低音域をサブウーファーで再生するのかを設定します。

SUBWF 200 Hz　：このときサブウーファーからはLFE成分(超低域信号成分)や「スピーカーの設定」で小(SMALL)に設定したチャンネルにおける200Hz以下の低音域が出力されます。
SUBWF 150 Hz　：このときサブウーファーからはLFE成分(超低域信号成分)や「スピーカーの設定」で小(SMALL)に設定したチャンネルにおける150Hz以下の低音域が出力されます。
SUBWF 100 Hz　：このときサブウーファーからはLFE成分(超低域信号成分)や「スピーカーの設定」で小(SMALL)に設定したチャンネルにおける100Hz以下の低音域が出力されます。
SUBWF PLS　：サブウーファーを接続し常にサブウーファーから音を出したい場合。このときサブウーファーからはLFE成分(超低域信号成分)プラス「スピーカーの設定」で大((LARGE)に設定したチャンネルの低音域も出力されます。
OFF(———)　：サブウーファーを接続しない場合。
低音域は他のスピーカーで再生されます。(スピーカーの設定によって低音域を再生するスピーカーは変わります)

- 「スピーカーの設定」でフロントスピーカーを小(SMALL)に設定していると、サブウーファーはON(SUBWF 100Hz、SUBWF 150Hz、SUBWF 200Hzのいずれか)に固定され、OFFやPLSを選ぶことはできません。

## LFEアッテネータの設定　(➡31ページ)

ドルビーデジタル信号やDTS信号に含まれるLFE成分(超低域信号成分)の信号レベルが大きすぎて、スピーカーから出る音に歪みが生じてしまう場合に、その信号レベルをアッテネート(減衰)する量を設定することができます。

0 dB　：収録されているレベルのまま再生します。
10 dB　：レベルを10dBアッテネート(減衰)します。
LFE OFF　：LFE成分の音が出なくなります。

# サラウンドに関する設定

## フロントスピーカーまでの距離の設定 （➡31ページ）

リスニングポジション（視聴位置）からフロントスピーカーまでの距離を設定します。

- 設定後に「ルーム設定」（➡22 ページ）を行うと、選択したルームタイプの設定値（下記）が優先されます。

それぞれのスピーカーまでの距離を入力することによって、その差により生じる音のタイミングのズレが自動的に補正され、リスニングポジションで適切な音場効果を得ることができます。

## センタースピーカーまでの距離の設定 （➡32ページ）

リスニングポジション（視聴位置）からセンタースピーカーまでの距離を設定します。

- 設定後に「ルーム設定」（➡22 ページ）を行うと、選択したルームタイプの設定値（下記）が優先されます。

それぞれのスピーカーまでの距離を入力することによって、その差により生じる音のタイミングのズレが自動的に補正され、リスニングポジションで適切な音場効果を得ることができます。

## サラウンドスピーカーまでの距離の設定 （➡32ページ）

リスニングポジション（視聴位置）からサラウンドスピーカーまでの距離を設定します。

- 設定後に「ルーム設定」（➡22 ページ）を行うと、選択したルームタイプの設定値（下記）が優先されます。

それぞれのスピーカーまでの距離を入力することによって、その差により生じる音のタイミングのズレが自動的に補正され、リスニングポジションで適切な音場効果を得ることができます。

**ルームタイプ（22ページ）における設定値**

| ルームタイプ | フロントスピーカーまでの距離 | センタースピーカーまでの距離 | サラウンドスピーカーまでの距離 | スピーカー出力レベル「dB」（23ページ） | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | FL | C | FR | SR | SL | SW |
| S | 1.8 m | 1.5 m | 0.9 m | 0 | 0 | 0 | –3 | –3 | 0 |
| M（工場出荷時の設定） | 1.8 m | 1.5 m | 1.8 m | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| L | 1.8 m | 1.5 m | 2.7 m | 0 | 0 | 0 | +1 | +1 | 0 |

## ダイナミックレンジコントロールの設定 （➡33ページ）

ダイナミックレンジとは再生能力を表す用語で、どのくらい小さな音からどのくらい大きな音までをきちんと（小さな音はノイズに埋もれずに、大きな音は歪まずに）再生できるかを数値（dB）で表わしたものです。ダイナミックレンジコントロールとは、このダイナッミックレンジを圧縮する機能です。音量を下げて映画を楽しむときなどは、ダイナミックレンジを圧縮すると微小な音も聞きやすくなり、映画をより一層楽しむことができます。

OFF ：ダイナミックレンジを圧縮せずにソフトに収録されたまま再生します。
MAX ：ダイナミックレンジを最も圧縮します。
MID ：ダイナミックレンジを少し圧縮します。

- この機能の効果が得られるのは、ダイナミックレンジコントロール対応のドルビーデジタルソフトだけですが、他のソフトを小音量で楽しむときにはミッドナイトモード（➡38ページ）が効果的です。

## デュアルモノの設定　(➡33ページ)

1+1デュアルモノラル信号とは、モノラルの音声チャンネルを2つもつデジタル信号のことで、ここではデュアルモノラル信号が入力されたときにどちらの音声をどのスピーカーから出力するかを設定します。この設定は例えば以下のような1+1デュアルモノラルフォーマットのソースにのみ有効です。

- BS デジタル放送のモノラルの二か国語放送や音声多重放送など
  ………… ステレオの二か国語放送などはデュアルモノラルとは異なるフォーマットになります。
- 2 か国語放送などを DVD レコーダーのデュアルモノラルモードで録画したもの
  ………… 録画モードの名称は機器によって異なります。
  詳しくは DVD レコーダーの取扱説明書をご覧ください。

ch1　：チャンネル1の音声のみをセンタースピーカーから出力する場合。(スピーカーの設定やリスニングモードの選択によっては左右の(フロント)スピーカーからチャンネル1の音声が出力されます)

ch2　：チャンネル2の音声のみをセンタースピーカーから出力する場合。(スピーカーの設定やリスニングモードの選択によっては左右の(フロント)スピーカーからチャンネル2の音声が出力されます)

L.c1 R.c2　：チャンネル1の音声を左の(フロント)スピーカーから、チャンネル2の音声を右の(フロント)スピーカーから出力する場合。

## インプットアッテネータの設定　(➡34ページ)

入力信号のレベルが大きすぎて、スピーカーから出る音に歪みが生じてしまう場合は、この設定をONにすると入力信号のレベルをアッテネート(減衰)することができます(アナログ入力信号にのみ有効)。

## 同軸デジタル端子と光デジタル端子(光1)の入力切換設定　(➡34ページ)

工場出荷時と同じ接続(リアパネル表記と同じ機器を接続)をしたときはこの設定を変える必要はありません。

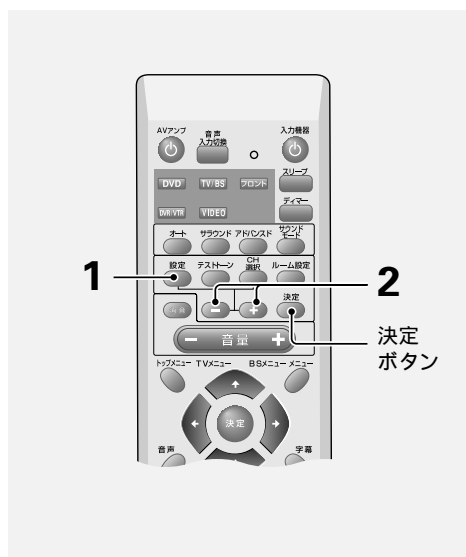
| 工場出荷時 | | 同軸デジタル入力端子をDVDに設定した場合 |
|---|---|---|
| 同軸デジタル入力（同軸）：DVR/VTR<br>光デジタル入力 1（光 1）：DVD |  | 同軸デジタル入力（同軸）：DVD<br>光デジタル入力 1（光 1）：DVR/VTR |

- 工場出荷時、同軸デジタル入力（同軸）は DVR/VTR に、光デジタル入力 1（光 1）は DVD に設定されています。光デジタル入力 2（光 2）は TV/BS に固定されています。

# サラウンドに関する設定

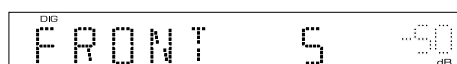
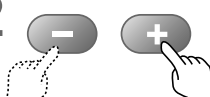
各項目についての詳しい説明は24ページから27ページをご覧ください。

## フロントスピーカーの設定

ここで設定の変更を行った時点で、その設定が自動設定よりも優先されます。ただし、その後センタースピーカーやサブウーファーを追加（接続）または削除（接続をはずす）した場合、ここで行った設定は無効となり、再度自動設定が行われます。詳しくは24〜25ページをご覧ください。

**1**

**フロントスピーカーの設定モードを選ぶ。**

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。

DIG FRONT S -50 dB

**2**

**フロントスピーカーのサイズを選ぶ。**

押すたびに「S」と「L」が切り換わります。

設定モードを終了するには決定ボタン を押します。

**お知らせ**

- フロントスピーカーを小（SMALL）に設定するときは、必ず低音域を再生するためにサブウーファーを接続してください。
- 20秒間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。

各項目についての詳しい説明は24ページから27ページをご覧ください。

## センタースピーカーの設定

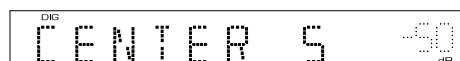
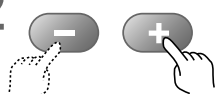
ここで設定の変更を行った時点で、その設定が自動設定よりも優先されます。ただし、その後センタースピーカーやサブウーファーを追加(接続)または削除(接続をはずす)した場合、ここで行った設定は無効となり、再度自動設定が行われます。詳しくは24～25ページをご覧ください。

**お知らせ**

- センタースピーカーとサラウンドスピーカーを共に接続していない場合は、サラウンドモード(➡37ページ)は「ステレオ」か「バーチャル」のみ選択することができます。
- フロントスピーカーを小(SMALL)に設定するとセンタースピーカーを大(LARGE)に設定することはできません。
- センター、サラウンド共に接続を無しで設定したとき、すべての入力のリスニングモードは「オート」にリセットされます。
- 20秒間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。

**1**

**センタースピーカーの設定モードを選ぶ。**

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。

**2**

**センタースピーカーのサイズを選ぶ。**

押すたびに「S」と「L」と「－(無し)」が切り換わります。

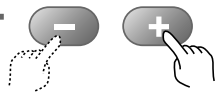
設定モードを終了するには決定ボタン を押します。

## サラウンドスピーカーの設定

**お知らせ**

- センタースピーカーとサラウンドスピーカーを共に接続していない場合は、サラウンドモード(➡37ページ)は「ステレオ」か「バーチャル」のみ選択することができます。
- センター、サラウンド共に接続を無しで設定したとき、すべての入力のリスニングモードは「オート」にリセットされます。
- 20秒間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。

**1**

**サラウンドスピーカーの設定モードを選ぶ。**

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。

**2**

**サラウンドスピーカーのサイズを選ぶ。**

押すたびに「S」と「L」と「－(無し)」が切り換わります。

設定モードを終了するには決定ボタン を押します。

# サラウンドに関する設定

各項目についての詳しい説明は24ページから27ページをご覧ください。

## サブウーファーの設定

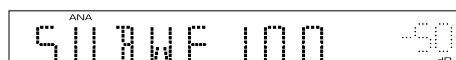
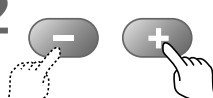
ここで設定の変更を行った時点で、その設定が自動設定よりも優先されます。ただし、その後センタースピーカーやサブウーファーを追加(接続)または削除(接続をはずす)した場合、ここで行った設定は無効となり、再度自動設定が行われます。詳しくは24〜25ページをご覧ください。

### お知らせ

- それぞれのスピーカーの性能によりますが、全て小さいスピーカーを使用している場合は200Hzに設定することをお勧めします。
- 「スピーカーの設定」でフロント、センター、サラウンドスピーカーのいずれかが小(SMALL)に設定されているときのみ、150Hz、200Hzを設定できます。
- ON(100Hz、150Hz、200Hz)に設定していてもスピーカーの設定、リスニングモードの選択、入力信号の種類によってはサブウーファーから音が出ないことがあります。
- フロントスピーカーが大(LARGE)に設定されているときのみPLSを選択することができます。
- 20秒間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。

**1** 設定

**サブウーファーの設定モードを選ぶ。**

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。

**2**

**再生したい低域の周波数レベルを選ぶ。**

押すたびに以下のように切り換わります。

設定モードを終了するには決定ボタン 決定 を押します。

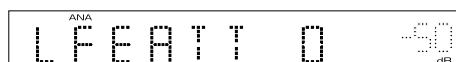
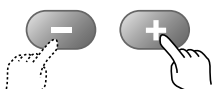
各項目についての詳しい説明は24ページから27ページをご覧ください。

## LFEアッテネータの設定

**1**

**LFEアッテネータの設定モードを選ぶ。**

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。

ANA LFEATT 0 -50 dB

**2**

**アッテネート(減衰)量 を選ぶ。**

押すたびに以下のように切り換わります。

LFEATT 0 ←→ LFEATT 10 → LFE OFF → LFEATT 0

設定モードを終了するには決定ボタン  を押します。

- すべてのアッテネート(減衰)量で試し、最適な状態に設定することをおすすめします。
- 20秒間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。

## フロントスピーカーまでの距離の設定

ここで設定を行った後にルーム設定(➡22ページ)を行うと、選択したルームタイプの設定値が優先されます。

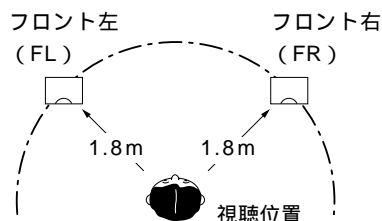
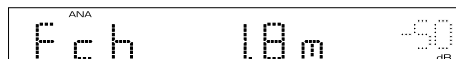
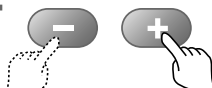
フロント左（FL）　フロント右（FR）　1.8m　1.8m　視聴位置

**1**

設定

**フロントスピーカーまでの距離の設定モードを選ぶ。**

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。

ANA Fch 1.8m -50 dB

**2**

**フロントスピーカーまでの距離を設定する。**

0.3～9mの間を0.3m間隔で設定できます。

設定モードを終了するには決定ボタン  を押します。

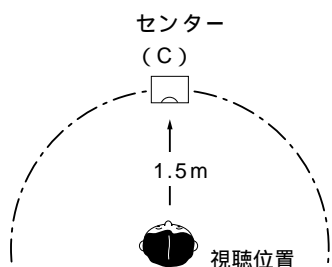
**お知らせ**

- フロントスピーカーまでの距離を設定すると、自動的にサブウーファーまでの距離もフロントスピーカーと同じ距離に設定されますので、サブウーファーとフロントスピーカーは視聴位置からほぼ同じ距離になるように設置してください（サブウーファーまでの距離の設定はありません）。
- 20秒間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。

# サラウンドに関する設定

各項目についての詳しい説明は24ページから27ページをご覧ください。

## センタースピーカーまでの距離の設定

ここで設定を行った後にルーム設定（➡22ページ）を行うと、選択したルームタイプの設定値が優先されます。

・「スピーカーの設定」で、センタースピーカーが無し（－）に設定されている場合は設定できません。
・ 20秒間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。

**1**

**センタースピーカーまでの距離の設定モードを選ぶ。**

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。

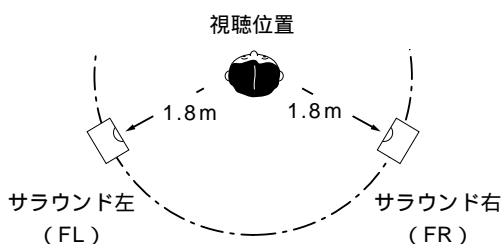
**2**

**センタースピーカーまでの距離を設定する。**

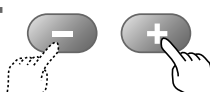
0.3～9mの間を0.3m間隔で設定できます。

設定モードを終了するには決定ボタン 決定 を押します。

## サラウンドスピーカーまでの距離の設定

ここで設定を行った後にルーム設定（➡22ページ）を行うと、選択したルームタイプの設定値が優先されます。

・「スピーカーの設定」で、サラウンドスピーカーが無し（－）に設定されている場合は設定できません。
・ 20秒間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。

**1**

**サラウンドスピーカーまでの距離の設定モードを選ぶ。**

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。

**2**

**サラウンドスピーカーまでの距離を設定する。**

0.3～9mの間を0.3m間隔で設定できます。

設定モードを終了するには決定ボタン  を押します。

各項目についての詳しい説明は24ページから27ページをご覧ください。

## ダイナミックレンジコントロールの設定

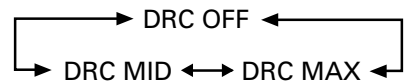
**1**

**ダイナミックレンジコントロールの設定モードを選ぶ。**

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。

**2**

**OFF、MIDまたはMAXを選ぶ。**

押すたびに以下のように切り換わります。

設定モードを終了するには決定ボタン 決定 を押します。

### お知らせ

- 小さい音量で楽しむ場合は、MAX に設定することをおすすめします。
- 20 秒間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。

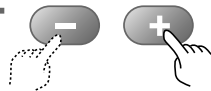
## デュアルモノの設定

**1** 設定

**デュアルモノの設定モードを選ぶ。**

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。

ANA ch1 -50 dB

**2**

**再生するスピーカーと音声チャンネルを設定する。**

押すたびに以下のように切り換わります。

設定モードを終了するには決定ボタン  を押します。


### お知らせ

- 20 秒間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。

# サラウンドに関する設定

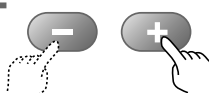
各項目についての詳しい説明は24ページから27ページをご覧ください。

## インプットアッテネータの設定

**1**

**インプットアッテネータの設定モードを選ぶ。**

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。

**2**

**再生するスピーカーと音声チャンネルを設定する。**

押すたびに以下のように切り換わります。 IN.ATT ON ⟷ IN.ATT OFF

設定モードを終了するには決定ボタン  を押します。

### お知らせ

- インプットアッテネーターはアナログ信号にのみ機能します。
- OVERインジケーター（➡9ページ）が点灯する場合は設定をONにしてください。
- 20秒間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。

## 同軸デジタル端子と光デジタル端子（光1）の入力切換設定

お手持ちのDVDプレーヤーの同軸デジタル端子を使用していない場合、この設定を行う必要はありません。

**工場出荷時**

| | |
|---|---|
| 光デジタル入力1 | DVD |
| 光デジタル入力2 | TV/BS |
| 同軸デジタル入力 | DVR/VTR |

↕

**設定切換後**

| | |
|---|---|
| 光デジタル入力1 | DVR/VTR |
| 光デジタル入力2 | TV/BS |
| 同軸デジタル入力 | DVD |

**1**

**同軸デジタル端子の入力切換モードを選ぶ。**

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。

**2**

**同軸デジタル端子の入力をDVDにする。**

押すたびに以下のように切り換わります。 DVR/VTR ⟷ DVD

設定モードを終了するには決定ボタン 決定 を押します。

### お知らせ

- 同軸デジタル端子の入力を「DVD」に設定した場合、光デジタル入力1に接続した機器の入力は「DVR/VTR」になります。
- 20秒間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。

# いろいろな使い方

## リスニングモードの種類と効果

本機では再生するスピーカーの数や、お聴きになるソフトのジャンルに合わせて最適なサウンドを選択することができます。
各入力ごと、ヘッドホンプラグを差しているときと差していないときそれぞれに独立してリスニングモードを設定することができます。（ヘッドホンプラグを差しているときは、ステレオまたはヘッドホンサラウンドのみ選択することができます）

### オート（ソフトに忠実な再生）

・ **オート （AUTO）**
入力信号の音声フォーマットに合わせて、ステレオモードと忠実デコードモードを自動で切り換え、ソフトに忠実な再生を行います。このモードにしておくと、モードを切り換えなくても、CDなど2chで収録されたソースは2chのまま、映画などマルチチャンネルで収録されたソースはマルチチャンネルのまま楽しむことができます。

### サラウンド
### （ドルビープロロジックII 再生、2チャンネルステレオ再生、仮想サラウンド再生）

2チャンネル信号（ドルビーサラウンド、PCMなど）を入力しているときは以下の3つのドルビープロロジックIIサラウンド再生を選ぶことができます。モノラル信号やマルチチャンネル信号（5.1chサラウンドなど）を入力しているときはそのまま忠実にデコード（再生）を行い、ディスプレイにデコード名称が表示されますので以下の3つのドルビープロロジックII再生を選ぶことはできません。また、フロントスピーカーのみ接続している場合は以下の3つのドルビープロロジックII再生を選ぶことはできません。

・ **ドルビープロロジック（PRO LOGIC）**
従来のドルビープロロジックと同等の再生モードです。特にドルビーサラウンドエンコード作品をこのモードで視聴すると効果的です。

・ **ドルビープロロジックIIムービー（MOVIE）**
5.1ch化します。映画再生に適したモードで、特にドルビーサラウンドエンコード作品をこのモードで視聴するとより効果的です。サラウンドｃｈへのダイアローグの漏れ込み（クロストーク）を聞こえにくくする処理などもあり、ドルビーデジタル5.1に迫るセパレーションや移動感などが得られます。

・ **ドルビープロロジックIIミュージック（MUSIC）**
5.1ch化します。音楽再生に適したモードで、通常のステレオ録音されたソース（CDなど）を再生するときに効果的です。サラウンドｃｈは定位よりも包囲感を重視しています。

以下のリスニングモードは左右2つのフロントスピーカーのみで再生するときのリスニングモードです。（スピーカーの設定や入力信号の種類によってはサブウーファーからも音が出ます）

・ **バーチャル（TRU SURROUND VIRTUAL）**
仮想立体音響を再現し、マルチチャンネルサラウンド再生時の臨場感を2つのスピーカーのみでお楽しみ頂けます。本機ではバーチャル技術として、SRS社のTru Surround方式 TruSurround by SRS を採用しています。MPEG-2 AAC信号はバーチャルを選択することはできません。

・ **ステレオ（STEREO）**
あらゆる入力信号についてステレオ再生（左右2つのスピーカーのみによる再生）します。

・ **ヘッドホンサラウンド（PHONES SURR.）**
ヘッドホンで聴いているときに、仮想立体音響を再現し、マルチチャンネルサラウンド再生時の臨場感をお楽しみ頂けます（ヘッドホンプラグをヘッドホン端子に差し込んでいるときのみ選択することができます）。MPEG-2 AAC信号はヘッドホンサラウンドを選択することはできません。

## アドバンスド（マルチチャンネルサラウンド再生）

フロントスピーカーに加え、センタースピーカーやサラウンドスピーカーも使い、パイオニアオリジナルのサラウンド効果を加えて再生するときのリスニングモードです。（ヘッドホンを差している状態ではこれらのモードは選択できません）
MPEG-2 AAC信号または96kHz リニアPCM信号を再生しているときは、アドバンスドを選択することはできません。

- **ムービー（MOVIE）**
  映画再生に適したモードです。特にドルビー、DTSエンコードの映画作品をこのモードで視聴するとより効果的で、映画館で映画を楽しんでいる雰囲気を味わうことができます。
- **ミュージック（MUSIC）**
  ほとんど球に近い理想の空間での反射音を再現します。宇宙空間に漂う未来のコンサートホールのイメージです。音楽ソフトやミュージカル系の映画の再生に効果的です。
- **TV サラウンド（TV SURROUND）**
  テレビ放送のほとんどの割合を占めるモノラル信号やステレオ信号もマルチチャンネルサラウンドで再生します。古い映画やスポーツ中継などのモノラル放送をマルチチャンネルサラウンドでお聴きになりたいときに効果的です。
- **ゲーム（GAME）**
  ゲームのスピード感、躍動感をよりいっそう高めます。シューティングゲームやレーシングゲーム等、右へ左へ駆け巡るような流れのあるシーンの多いゲームに効果的です。
- **バーチャルサラウンドバック（VIRTL SB）**
  まるでサラウンドバックチャンネル（サラウンドチャンネルの後方中央）から音が出ているかのようにデコードします。
  5本のスピーカーで6.1ch再生のような効果を楽しむことができます。
- **エキスパンデッド（EXPANDED）**
  DOLBY SURROUND マークのついたビデオやBS/CS放送や、ドルビーサラウンドで収録されたDVDソフトなどを、あたかも5.1chサラウンドソフトを再生しているかのような効果的かつ立体的な音響空間でお楽しみいただけます。また、ドルビーデジタルやDTSなどの5.1chサラウンドソフトを再生しているときも、よりいっそう拡がりのあるサラウンド効果を得ることができます。
- **5-ch STEREO（5-STEREO）**
  標準のステレオ（2チャンネル）音声を加工することなく、5チャンネルにて再生しますので、部屋のどの場所にいてもステレオ感をお楽しみいただけます。

**お知らせ**

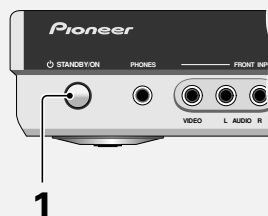
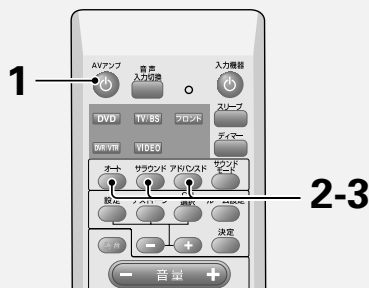
- スピーカーの設定（➡28～29ページ）やサブウーファーの設定（➡30ページ）または入力信号の種類によって、再生するスピーカーが変わることがあります。

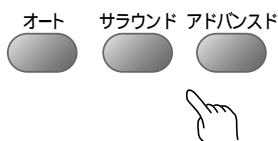
## リスニングモードの選択

### 1

**本機の電源を入れる。**

### 2

オート　サラウンド　アドバンスド

**リスニングモードのタイプを選ぶ。**

選んだモードに応じたインジケーターが点灯します。

### 3

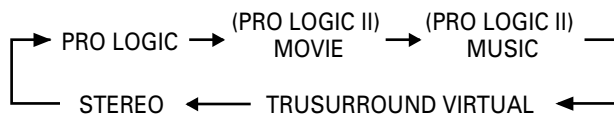
**手順2で選んだタイプのボタンを押してお好みのリスニングモードを選ぶ。**

各タイプごと、ボタンを押すたび以下のように切り換わります。

**オート**

リスニングモードを「オート」にするとオートボタンを押しても解除することはできません。「オート」モードを解除するときはサラウンドボタンかアドバンスドボタンを押してください。

**サラウンド**

～2チャンネル信号を入力している場合～

～マルチチャンネル信号を入力している場合～

**アドバンスド**

### お知らせ

- 工場出荷時は「オート」に設定されています。ヘッドホンを挿入したときの工場出荷時は「STEREO」です。
- 各入力ごとに、ヘッドホンプラグを差しているときと差していないときそれぞれに独立してリスニングモードを設定することができます。
- ヘッドホンプラグを差しているときは、サラウンドはステレオまたはヘッドホンサラウンドのみ選択することができます。
- 96kHz リニアPCM信号を再生しているときは、ステレオのみ選択することができます。ステレオ以外のモードで設定しているときに96kHz リニアPCM信号が入力されると、自動的に「オート」に切り換わります。
- ヘッドホンプラグを差しているときは、アドバンスドを選択することはできません。
- アドバンスドを選択して再生しているときに、MPEG-2 AAC信号が入力されるとサウンドモードに切り換わります。

## サウンドモードの種類と効果

本機では再生する音楽や音声などあらゆるソースに対して、さまざまな音場効果を付け加えることができます。

### サウンドモード（音場効果）

- **ナチュラル（NATURAL）**
  小型スピーカーを使用してマルチチャンネル再生しているときに、周波数特性を補正してより臨場感のあるサラウンド再生を行います。
- **ミッドナイト （MIDNIGHT）**
  夜間など小音量で聴いていると、どうしても響きが少なくなったり、微小な音やセリフが聞こえなかったりします。ミッドナイトリスニングモードをONにすると、小音量でも映画や音楽の情報を聞き漏らすことなくお楽しみいただけます。（各入力ごとにON/OFFを設定できます）
- **マナー（MANNER）**
  キンキンする高音や、ドンドン響く低音を和らげて再生します。高音が鋭くて耳につくときや、低音が大きすぎて不快なときなどに効果的です。
- **ブライト（BRIGHT）**
  2chソースを再生しているときに不足しがちな低域と高域を補正し、クリアなサウンドを再生します。
- **重低音（S. BASS）**
  低音のレベルを上げて迫力ある再生にします。
- **OFF**
  音場効果を付け加えません。

## サウンドモードの選択

**1**

**サウンドモードボタンを押す。**

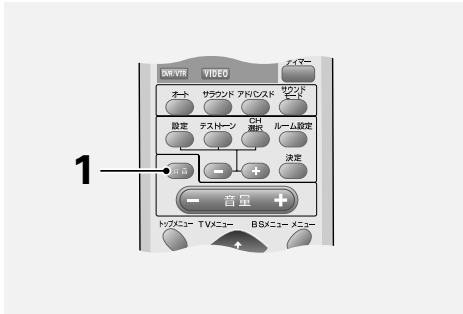
ボタンを押すたび上記のモードが順次切り換わります。

### お知らせ

- 工場出荷時は「ナチュラル」に設定されています。
- ミッドナイトモードは音量に合わせて効果も自動調整されます。
- サラウンドモードが「バーチャル」に設定されているときはサウンドモードを選択することができません。
- 96kHz リニアPCM信号またはMPEG-2 AAC信号を入力しているときは、サウンドモードを選択することができません。

# その他の機能

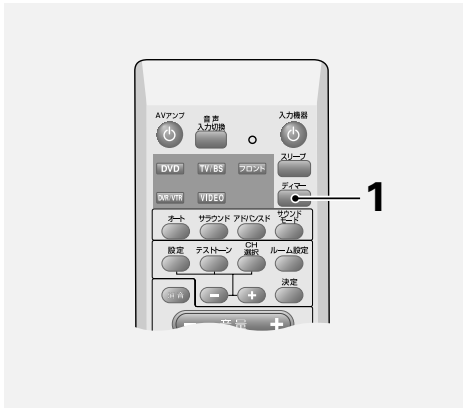
## 消音（ミュート）

ボタン1つで一時的に音を消す（ミュートする）ことができます。

**1**

**消音ボタンを押す。**

一時的に音が消えます。もう一度押すと元の音量に戻ります。音量−／＋ボタンでもミュートを解除することができます。

## 表示部の明るさ調整（ディマー）

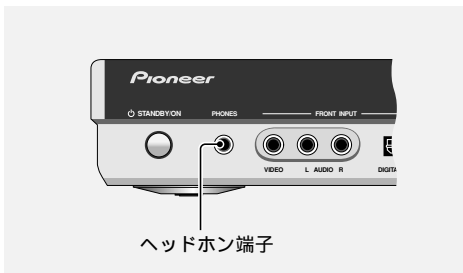
表示部の明るさを4段階に調整することができます。

**1**

**ディマーボタンを押して好みの明るさに調整する。**

押すたびに表示部の明るさが「明るい」「少し暗い」「暗い」「OFF」の4段階で切り換わります。

**お知らせ**

・ OFFのときはインジケーターも消灯し、音量レベル表示のみがうっすらと点灯します。
・ 設定した明るさに関わらず、何かの操作をしたときは明るく点灯し、2 秒後に元の明るさに戻ります。

## ヘッドホンを使う

ヘッドホン端子

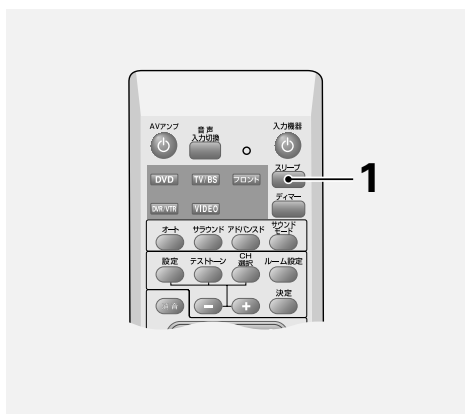
**1**

**ヘッドホンプラグをヘッドホン端子に差し込む。**

・ 差し込むとスピーカーから音は出なくなります。
・ リスニングモードはステレオとヘッドホンサラウンドのみの選択になります。

## スリープタイマーの設定（スリープ）

設定した時間が経過すると自動的に電源を切ることができます。

**1**

**スリープボタンを押してタイマーを設定する。**

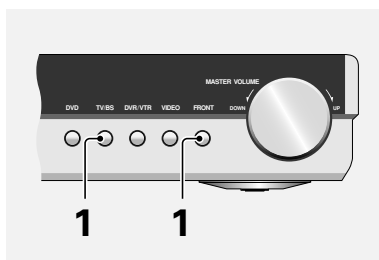
押すたびにスリープタイマーの時間が「90分後」「60分後」「30分後」「OFF」の4段階で切り換わります。
スリープタイマーが設定されるとスリープインジケーターが点灯します。

スリープタイマーインジケーター

**お知らせ**

・ スリープタイマーを設定した後にスリープボタンを1回押すことで、現在の残り時間が表示されます。表示中にもう一度スリープボタンを押すとタイマーの時間が切り換わります。

## 設定のオールリセット（本体操作のみ）

本機の全ての機能の設定（リモコンのプリセットコード設定は除く）を工場出荷時と同じ状態（次ページ）に戻します。この操作を行う前に、必要に応じて現在の設定状況を覚え書きして残しておくことをおすすめします。

**1** **TV/BSボタンとFRONTボタンを同時に5秒以上押し続ける**

全ての設定がリセットされ、スタンバイ状態に切り換わります。

**お知らせ**

・ 約1ヶ月以上、電源コードを電源コンセントから抜いた状態が続きますと設定がオールリセットされます。
・ リモコンのプリセットコード設定のリセットについては44ページをご覧ください。

## 工場出荷時の設定一覧（本体）

設定のオールリセット(前ページ)を行うと、各機能は以下のように設定されます。

| 設定項目 | 初期値 | 参照ページ |
|---|---|---|
| 入力 | DVD | 19ページ |
| 音量 | ーーー（最小） | 19ページ |
| リスニングモード | オート（すべての入力） | 37ページ |
| リスニングモード<br>（ヘッドホンを差しているとき） | ステレオ（すべての入力） | 37ページ |
| サウンドモード | ナチュラル（NATURAL） | 38ページ |
| 音声入力切換 | オート | 21ページ |
| スピーカーの設定 | 自動設定 | 24～25<br>ページ |
| サブウーファーの設定 | 自動設定 | 25ページ |
| LFEアッテネータ | 0 dB | 25ページ |
| フロントスピーカーまでの距離 | 1.8 m | 26ページ |
| センタースピーカーまでの距離 | 1.5 m | 26ページ |
| サラウンドスピーカーまでの距離 | 1.8 m | 26ページ |
| ダイナミックレンジコントロール | OFF | 26ページ |
| デュアルモノの設定 | ch1 | 27ページ |
| インプットアッテネータ | OFF | 27ページ |
| 同軸デジタル端子の入力切換設定 | COAX：DVR/VTR （光1：DVD） | 27ページ |
| スピーカー出力レベル | フロント 左/右（0dB）、センター（0dB）、<br>サラウンド 左/右（0dB）、サブウーファー（0dB）、 | 23ページ |
| 表示部の明るさ調整（ディマー） | 明るい | 39ページ |

**お知らせ**

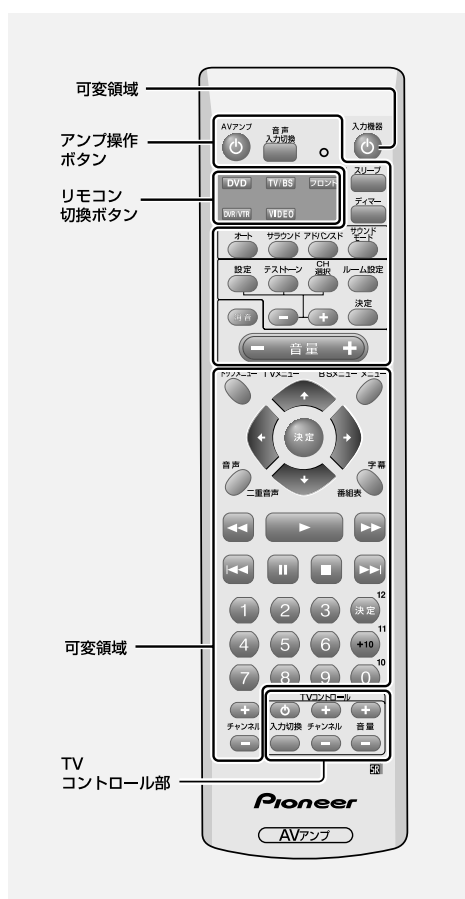
・ 工場出荷時のリモコンのプリセットコード設定については42ページをご覧ください。

# リモコンの使いこなし

**付属のリモコンで操作モードを切り換えて、本機以外のパイオニア製品や他社の機器を操作することができます。**

工場出荷時は各リモコン切換ボタンにパイオニアの代表機器のプリセットコード（リモコンコード）が割り当てられています（下記参照）ので、操作モードを切り換えても操作できないときや、他社の機器を操作するときはプリセットコードの設定を行う必要があります（一度設定をすれば、次からは操作モードを切り換えるだけで操作できます）。
また、操作モードの切り換え操作を行うと、同時に入力も切り換わります。

## 操作モードの切り換え（他機器の操作）

リモコンの操作モード（下図の可変領域のボタンの働き）を操作したい機器のモードに切り換えます。各機器の操作モードを選んだときの各ボタンの働きについては45ページをご覧ください。

**1** **操作したい機器を選ぶ**

リモコンの操作モードと本機の入力が選択した機器に切り換わります。

工場出荷時の設定では、各ボタンを押すと、以下の各パイオニア機器の操作モードになります。

| リモコン切換ボタン | 機器（パイオニア製品） | プリセットコード |
|---|---|---|
| DVD | DVDプレーヤー | 000 |
| TV/BS | BSデジタルチューナー内蔵テレビ | 231 |
| DVR/VTR | DVDレコーダー | 456 |
| VIDEO | テレビ（地上波放送） | 667 |
| フロント | VTR | 400 |

| TV コントロール | テレビ（地上波放送） | 667 |
|---|---|---|

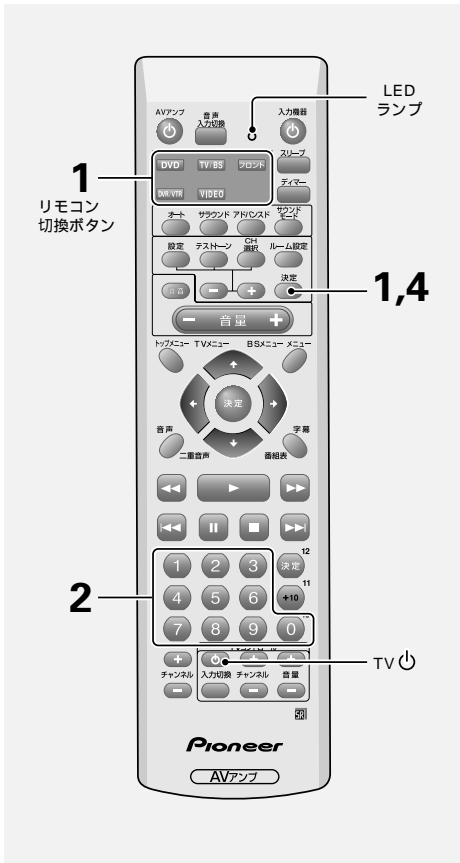
### お知らせ

・ 操作モードを切り換えても他機器を操作できないときは、プリセットコード設定（➡43～44ページ）を行ってください。

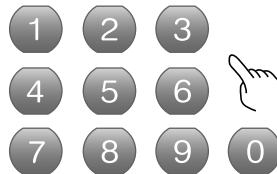
## TVコントロール部について

TVコントロール部は操作モードの切り換えに関わらず、いつでもTVコントロールに割り当てられた機器の操作をすることができます。TVコントロールにお手持ちのテレビのプリセットコードを割り当てる場合は「TVコントロールにお手持ちのテレビのプリセットコードを割り当てる」（➡44ページ）をご覧ください。

## プリセットコード設定 （リモコンコードの呼び出し）

リモコン切換ボタンに操作したい機器のプリセットコード（リモコンコード）を割り当てます。
操作したい機器に主電源ボタンがある場合は、ONにしてから以下の手順にお進みください。
工場出荷時に割り当てられているプリセットコードついては42ページをご覧ください。
対応機器の種類とメーカーについては「プリセットコードリスト」（➡46ページ）をご覧ください。

### 1 割り当てたいリモコン切換ボタンを押しながら決定ボタンを押す。

リモコンのLEDランプが点灯し、プリセットコード設定モードになります。
プリセットコード設定モードを中止するには、もう一度決定ボタンを押します。

### 2 操作したい機器にリモコンを向け、その機器に該当する3桁のコードナンバー(➡46ページ)を入力する。

リモコンのLEDランプが消灯します。
正しいコードナンバーを入力すると、電源ON/OFF信号がリモコンから送信され、操作したい機器の電源がONまたはOFFに切り換わります。

**お知らせ**

・ コードナンバー入力時にリモコンを操作したい機器の方に向けていないと電源はON/OFFしません。
・ STANDBY/ONモードがない機器については正しく設定ができていても、電源は切り換わりません。この場合は、その後実際に操作できるか確認してください。
・ 機器の電源がON/OFFしない場合で、その機器に別のコードナンバーがある場合は、別のコードナンバーを使って手順1からやり直してみてください。

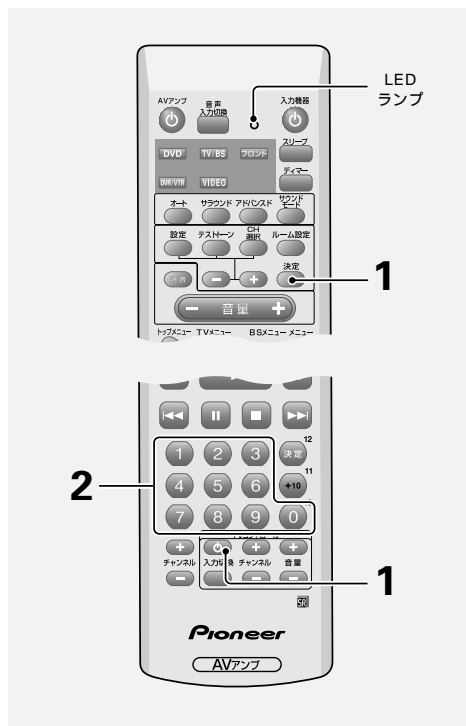
### 3 他の機器も設定する場合は手順1～2を繰り返す。

**お知らせ**

・ 30秒間ボタン操作がない場合は自動的に設定モードを終了します。
・ 操作の途中で決定ボタンを押すと設定モードを終了します。

# リモコンの使いこなし

## TVコントロールにお手持ちのテレビのプリセットコードを割り当てる

TVコントロールボタンで操作したいTVのプリセットコードが工場出荷時のプリセットコードと異なる場合は、TVコントロールに独立したコードを以下の手順でプリセットすることができます。

**1　TV ⏻ ボタンを押しながら決定ボタンを押す。**

リモコンのLEDランプが点灯し、プリセットコード設定モードになります。

プリセットコード設定モードを中止するには、もう一度決定ボタンを押します。

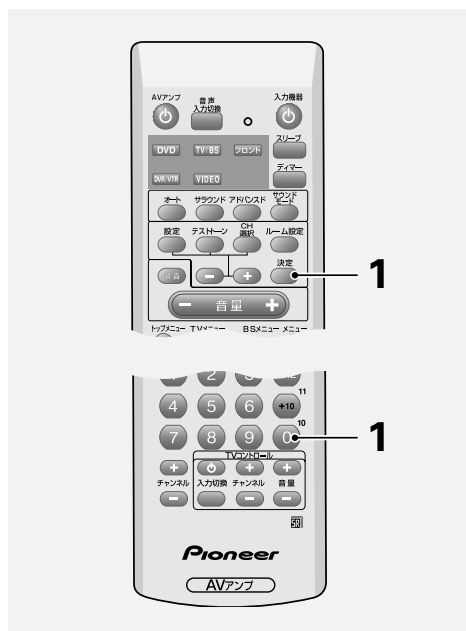
**2　操作したいテレビにリモコンを向け、その機器に該当する3桁のコードナンバー(➡46ページ)を入力する。**

リモコンのLEDランプが消灯します。

正しいコードナンバーを入力すると、電源ON/OFF信号がリモコンから送信され、テレビの電源がONまたはOFFに切り換わります。

- コードナンバー入力時にリモコンを操作したいテレビの方に向けていないと電源はON/OFFしません。
- STANDBY/ONモードがないテレビについては正しく設定ができていても、電源は切り換わりません。この場合は、その後実際に操作できるか確認してください。
- テレビの電源がON/OFFしない場合で、その機器に別のコードナンバーがある場合は、別のコードナンバーを使って手順1からやり直してみてください。

## プリセットコード設定のリセット

全てのプリセットコード設定を工場出荷時と同じ状態(➡42ページ)に戻します。

**1**

**決定ボタンを押しながら数字ボタン0を3秒以上押し続ける**

リモコンのLEDランプが3回点滅したところで全てのプリセットコード設定が工場出荷時と同じ状態になり、リモコンの操作モードはDVDに切り換わります。

- 3回点滅する前に手を離した場合、設定のリセットはキャンセルされ、プリセットコードは最後に設定した状態のままになります。
- 工場出荷時のプリセットコード設定については、42ページの表をご覧ください。

## 各操作モードにおける各ボタンの働き

| ボタン | DVD<br>DVDレコーダー<br>LD | DVD機能付きゲーム機(SONY/MICROSOFT) | テレビ | BSデジタルチューナー内蔵テレビ<br>BSデジタルチューナー<br>HDD内蔵BSデジタルチューナー | CATV | VTR(ビデオデッキなど) | CD/CD-R/MD/TAPE | TUNER |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ⏻ | 電源のON/OFF | | 電源のON/OFF | 電源のON/OFF | 電源のON/OFF | 電源のON/OFF | 電源のON/OFF | 電源のON/OFF |
| ► | 再生 | 再生(START) | | 終了/再生 | ガイド | 再生 | 再生 | |
| ■ | 停止 | 停止(×) | | 緑 | 緑 | 停止 | 停止 | MPX |
| II | 一時停止 | 一時停止 | | 赤 | 赤 | 一時停止 | 一時停止 | CLASS |
| ►► | 早送り | 早送り(R2) | BS7 | 番組情報/BS3桁 | | 早送り | 早送り | |
| ◄◄ | 早戻し | 早戻し(L2) | BS5 | 戻る | | 早戻し | 早戻し | |
| ►►I | 次のチャプター(トラック)の頭出し | 次のチャプター(トラック)の頭出し | BS11 | 黄 | 黄 | | トラックの頭出し | DIRECT ACCESS |
| I◄◄ | 前のチャプター(トラック)の頭出し | 前のチャプター(トラック)の頭出し | BS9 | 青 | 青 | | トラックの頭出し | |
| トップメニュー(TV メニュー) | [DVD/DVDレコーダー]トップメニュー画面を表示 | TITLE | | TVメニュー/映像切換 | 放送サービス切換 | | | |
| メニュー(BS メニュー) | [DVD/DVDレコーダー]各種メニュー画面を表示 | 各種メニュー画面を表示 | 各種メニュー画面を表示 | BSメニュー/番組ナビを表示 | d | | | |
| 音声(二重音声) | 再生音声の切り換え | BACK | | 音声切り替え | 音声切り替え | | | |
| 字幕(番組表) | 字幕切り替え | INFO | | 番組表を表示 | 字幕 | | | |
| ⇧⇩⇦⇨ | 各種メニュー画面を操作 | 各種メニュー画面を操作 | | 各種メニュー画面を操作 | 各種メニュー画面を操作 | | | ⇧⇩(TUNE+/–)<br>⇦⇨(STATION+/–) |
| ⇩⇧ 同時押し | [DVDレコーダー]録画 | | | [HDD内蔵BSデジタルチューナー]録画 | | 録画 | [CD-R/MD/TAPE]録音 | |
| 決定 | 操作を決定 | 操作を決定 | 操作を決定 | 操作を決定 | 操作を決定 | | | |
| 数字ボタン(1〜9) | チャプター(トラック)のダイレクト選択 | チャプター(トラック)のダイレクト選択 | チャンネルのダイレクト選択 | [BSチューナー内蔵TV]BSデジタルチャンネルのダイレクト選択<br>[BSデジタルチューナー]チャンネルのダイレクト選択 | チャンネルのダイレクト選択 | チャンネルのダイレクト選択 | トラックのダイレクト選択 | 放送局のダイレクト選択 |
| 数字ボタン(0/10) | チャプター(トラック)のダイレクト選択 0 | チャプター(トラック)のダイレクト選択 0 | チャンネルのダイレクト選択 10/0 | [BSチューナー内蔵TV]BSデジタルチャンネルのダイレクト選択 10<br>[BSデジタルチューナー]チャンネルのダイレクト選択 0 | チャンネルのダイレクト選択 0 | チャンネルのダイレクト選択 10 | トラックのダイレクト選択 0 | 放送局のダイレクト選択 0 |
| 数字ボタン(+10/11) | チャプター(トラック)のダイレクト選択 +10 | 字幕切り替え(L3) | チャンネルのダイレクト選択 11 または+10 | [BSチューナー内蔵TV]BSデジタルチャンネルのダイレクト選択 11<br>[BSデジタルチューナー]データ放送を表示/+10 | # | チャンネルのダイレクト選択 11 または+10 | トラックのダイレクト選択 +10 | |
| 決定/数字ボタン(12) | [DVDレコーダー]ディスクナビゲーター画面を表示<br>[LD]A面とB面の切り替え | (SELECT) | チャンネルのダイレクト選択 12 または選択したチャンネルの決定 | [BSチューナー内蔵TV]BSデジタルチャンネルのダイレクト選択 12<br>[BSデジタルチューナー]i. LINK または選択したチャンネルの決定 | * | チャンネルのダイレクト選択 12 または入力切換 | [CD]DISC<br>[MD]OPEN/CLOSE | |

**ご注意:**

- メーカーや製品によっては、操作できなかったり、違うはたらきをするボタンがあります。

## プリセットコードリスト

| 機器 | メーカー名 | メーカーコード |
|---|---|---|
| DVD | TOSHIBA | 001 |
| | SONY | 002, 016（DVD機能付きゲーム機） |
| | PANASONIC | 003 |
| | VICTOR | 004 |
| | SAMSUNG | 005 |
| | SHARP | 006 |
| | AKAI | 007 |
| | DENON | 010 |
| | HITACHI | 012 |
| | PHILIPS | 013 |
| | MICROSOFT | 017（DVD機能付きゲーム機） |
| | PIONEER | 000, 003, 008<br>111(DVD/LD) |
| ＊BSデジタルチューナー内蔵テレビ | PIONEER | 231(BSデジタル)<br>667(地上波) |
| テレビ | PANASONIC | 622 |
| | SONY | 604 |
| | TOSHIBA | 663 |
| | MITSUBISHI | 609 |
| | HITACHI | 664 |
| | VICTOR | 665 |
| | SHARP | 602 |
| | SANYO | 614 |
| | AIWA | 660 |
| | NEC | 659 |
| | FUNAI | 658 |
| | FUJITSU | 666 |
| | PIONEER | 667(地上波のみ)<br>231 |
| DVDレコーダー | PIONEER | 456 |
| | KENWOOD | 456 |
| | SANYO | 456 |
| | MITSUBISHI | 456 |
| BSデジタルチューナー | PANASONIC | 226 |
| | VICTOR | 227 |
| | TOSHIBA | 228 |
| | PIONEER | 226, 231,<br>232(HDD内蔵) |
| VTR | PANASONIC | 462, 463, 473 |
| | TOSHIBA | 464, 474 |
| | HITACHI | 465, 472 |
| | SONY | 460, 461, 475,<br>476, 477, 478 |
| | MITSUBISHI | 466, 467, 470 |
| | SANYO | 468 |

| 機器 | メーカー名 | メーカーコード |
|---|---|---|
| | SHARP | 469, 471 |
| | VICTOR | 407, 431, 428 |
| | NEC | 429 |
| | PIONEER | 400 |
| CATV | PIONEER | 718 |
| LD | SONY | 101 |
| | PANASONIC | 105, 106 |
| | KENWOOD | 103 |
| | PHILIPS | 104 |
| | MITSUBISHI | 100 |
| | PIONEER | 100, 111（DVD/LD） |
| CD | SONY | 301, 316, 317,<br>318 |
| | TECHNICS | 304, 326 |
| | PANASONIC | 304, 326 |
| | KENWOOD | 310, 311, 321 |
| | DENON | 309 |
| | PHILIPS | 312, 322 |
| | YAMAHA | 314, 315, 328 |
| | VICTOR | 303 |
| | TEAC | 305, 306, 324,<br>325, 327 |
| | ONKYO | 307, 308, 320 |
| | MARANTZ | 323, 312, 324 |
| | SANYO | 313 |
| | PIONEER | 300 |
| CD-R | PHILIPS | 346 |
| | PIONEER | 345 |
| MD | SONY | 901 |
| | KENWOOD | 903 |
| | SHARP | 902 |
| | TEAC | 904 |
| | ONKYO | 905 |
| | DENON | 906 |
| | PIONEER | 900, 902 |
| DAT | PIONEER | 907 |
| チューナー | PIONEER | 500 |

### お知らせ

・本機のリモコンは上記の表にあるメーカーの製品に対応しています。プリセットコードリストにあるメーカーのプリセットコードをすべて呼び出してもメーカーや製品によっては、操作できなかったり、違うはたらきをすることがあります。

# その他

## 用語解説

DVD ソフトのパッケージのほとんどに以下のような表示がされています。
1 枚のディスクに複数の音声が収録されている場合が多く、どの音声を聴くのか選択することができます。

1. 英　語（5.1ch サラウンド）　DOLBY DIGITAL
2. 日本語（ドルビーサラウンド）
3. 英　語（DTS 5.1ch サラウンド）　DIGITAL dts SURROUND

収録音声数　　録音方式　　音声記録方式

## 音声記録方式

### ドルビーデジタル DOLBY DIGITAL

DVDの標準音声フォーマットの1つとして採用された音声圧縮記録方式です。モノラルやステレオで記録されているソフトもあれば、現在最も主流とされている5.1chサラウンドで記録されているソフトもあります。5.1chサラウンドソフトには、5つのチャンネルの個別にそれぞれのシーンに合った音声が記録されており、サブウーファーから出力される低音も記録されているため、本機とデジタル接続して再生することにより、すべてのチャンネルの信号が伝送され、臨場感あふれるマルチチャンネルサラウンド再生をお楽しみ頂くことができます。
よってドルビーデジタル信号を再生するにはDVDプレーヤーと本機をデジタル接続することが必要です。

### DTS DIGITAL dts SURROUND

デジタルシアターシステム（Digital Theater System）の略で、DVDの標準音声フォーマットの1つとして採用された音声圧縮記録方式です。5.1chサラウンドが主流で、音声の低圧縮率とデータの高転送レートがもたらす豊富な情報量により、高音質マルチチャンネルサラウンド再生を実現します。
DTS信号を再生するにはDVDプレーヤーと本機をデジタル接続することが必要です。

### MPEG-2 AAC(Advanced Audio Coding)

MPEG-2オーディオの標準方式の一つで、BSデジタル放送で採用されている音声符号化規格です。低ビットレートでかつ高音質を確保できる点が特長で、番組内容によりマルチチャンネル設定が可能なフォーマットです。以下が米国パテントナンバーです。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 08/937,950 | 5 297 236 | 5,481,614 | 5,490,170 |
| 5848391 | 4,914,701 | 5,592,584 | 5,264,846 |
| 5,291,557 | 5,235,671 | 5,781,888 | 5,268,685 |
| 5,451,954 | 07/640,550 | 08/039,478 | 5,375,189 |
| 5 400 433 | 5,579,430 | 08/211,547 | 5,581,654 |
| 5,222,189 | 08/678,666 | 5,703,999 | 05-183,988 |
| 5,357,594 | 98/03037 | 08/557,046 | 5,548,574 |
| 5 752 225 | 97/02875 | 08/894,844 | 08/506,729 |
| 5,394,473 | 97/02874 | 5,299,238 | 08/576,495 |
| 5,583,962 | 98/03036 | 5,299,239 | 5,717,821 |
| 5,274,740 | 5,227,788 | 5,299,240 | 08/392,756 |
| 5,633,981 | 5,285,498 | 5,197,087 | |

### PCM

Pulse Code Modulationの略で、圧縮していない2チャンネルステレオデジタル音声です。CDのデジタル音声はほとんどこの方式です。DVDの音声記録方式の1つでもありますが、CDのサンプリング周波数が44kHzであるのに対し、DVDのサンプリング周波数は48kHzや96kHzと高いので、DVDの方がより高音質の音声を楽しめます。

# その他

## 録音方式

### 2ch ステレオ信号

左右2つのチャンネルに別々の音が記録されている信号です。通常の音楽用CDなどはほとんどこの信号で録音されています。

### 2ch サラウンド信号（ドルビーサラウンド信号）

フロント左/右、センター、サラウンドの4つのチャンネルの音声信号を左右2つのチャンネルに圧縮した信号です。この信号をドルビープロロジックサラウンド再生することにより、各チャンネルの音声信号がソフトに忠実に再生されます。（サラウンド左/右からは同じ音が出力されます）

### 5.1ch サラウンド信号

フロント左/右、センター、サラウンド左/右の5つのチャンネルと超低音域専用チャンネル（LFEチャンネルと呼ばれサブウーファーから再生されます）にそれぞれ異なる信号が記録されている信号です。この信号を忠実に再生することにより、立体感のある音場を得ることができます。

## 再生方式

### （2ch）ステレオ再生

左右2つのスピーカーのみによる再生のことです。（ヘッドホン使用時は、ヘッドホンの左右2つのチャンネルのみ）

### 仮想（バーチャル）サラウンド再生

マルチチャンネルサラウンド再生時の臨場感を2つのスピーカーのみでお楽しみ頂けます。本機ではバーチャル技術として、SRS社のTru Surround方式 TruSurround by SRS を採用しています。

TruSurroundと (●) 記号はSRS Labs, Inc. の商標です。TruSurround技術はSRS Labs, Inc. からのライセンスに基づき製品化されています。

### ドルビープロロジックサラウンド再生

2chサラウンド信号や2chステレオ信号をドルビープロロジック回路を通し、マルチチャンネルサラウンドで再生することです。2chサラウンド信号については圧縮された信号を忠実にデコード（再生）し、2chステレオ信号については2チャンネル分の信号からセンター、サラウンドチャンネルの信号をつくりだします。ただし、この再生方式ではサラウンドチャンネルはモノラルであるため、左右のサラウンドスピーカーからは同じ音声が出力されます。

### ドルビープロロジック II サラウンド再生

ドルビープロロジックIIは、ドルビープロロジックを更に改良し、ステレオ音声を5.1chに拡張して再生するためのマトリックスデコード技術です。ステアリングロジック回路により、全可聴帯域のメイン5chを作り出します。CDのような通常のステレオ音楽素材に対してもより優れた立体音場効果、包囲感、より明確な定位をもたらし、ドルビーサラウンドエンコードされた素材はディスクリート5.1chに匹敵する移動感をも実現できるものです。

**■プロロジックとプロロジックIIの違い**

| | プロロジック | プロロジックII |
|---|---|---|
| 効果的なソース | ドルビーサラウンドエンコード処理されたステレオ音声 | すべてのステレオ音声 |
| デコードチャンネル数 | 4.1ch （サラウンドモノラル） | 5.1ch （サラウンドステレオ） |
| 周波数特性 | サラウンド 7kHz帯域制限 | 全チャンネル フルバンド |

### マルチチャンネルサラウンド再生

3本以上のスピーカーでサラウンド再生することです。音声信号が3チャンネル以上の録音方式で記録されているソフトについてはソフトに忠実に再生します。なかでも5.1chサラウンド信号の再生については、左右のサラウンドスピーカーからもそれぞれ異なる音声が出力されるので、ドルビープロロジックサラウンド再生に比べ、より立体感のある音場で迫力のある臨場感がお楽しみいただけます。

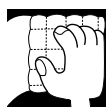
### モノラル再生

モノラル信号やデュアルモノラル信号をソフトに忠実に再生することです。

### ヘッドホンサラウンド再生

マルチチャンネルサラウンド再生時の臨場感をヘッドホンでお楽しみ頂けます。

## デコード

ドルビーデジタル、DTS、MPEG-2 AACなどの圧縮されたデジタル信号を解凍して再生することです。

**製品のお手入れについて**

- 本体は通常、柔らかい布で空拭きしてください。汚れがひどい場合は水で5～6倍に薄めた中性洗剤に柔らかい布を浸してよく絞り、汚れを拭きとった後乾いた布で拭いてください。
- アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤などが付着すると印刷、塗装などがはげることがありますのでご注意ください。また、ゴムやビニール製品を長時間触れさせることも、キャビネットを傷めますので避けてください。
- 化学ぞうきんなどをお使いの場合は、化学ぞうきんなどに添付の注意事項をよくお読みください。なお、本体前面のハーフミラー部は化学ぞうきんなどで拭くと外観を損なうことがあります(ムラやくもりが発生することがあります)。
- お手入れの際は、電源プラグをコンセントから抜いてください。

**音のエチケット**

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所への思いやりを十分にいたしましょう。
ステレオの音量は、貴方の心がけ次第で大きくも小さくもなります。
とくに静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞にはとくに気を配りましょう。近所へ音が漏れないように窓を閉め、お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

**長年ご使用のオーディオ製品の点検をおすすめいたします。こんな症状はありませんか**

- **電源コードや電源プラグが異常に熱くなる。**
- **電源コードにさけめやひび割れがある。**
- **電気が入ったり切れたりする。**
- **本体から異常な音、熱、臭いがする。**

**すぐに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜き、故障や事故防止のため電気店または当社サービスステーションに点検（有料）をご依頼ください。**

# その他

## 保証とアフターサービス

### 保証書（別添）

保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

**保証期間はご購入日から1年間です。**

### 補修用性能部品の最低保有期間

当社は、この製品の補修用性能部品を製造打ち切り後最低8年間保有しています。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。

### 修理に関するご質問、ご相談

お買上げの販売店または、お近くのパイオニアサービスステーションをご利用ください。
所在地、電話番号は別添の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

### 修理を依頼されるとき

51～54ページにしたがって調べていただき、なお異常のあるときは、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店、またはお近くのパイオニアサービスステーションにご連絡ください。

### 連絡していただきたい内容

- 商品名：AVデジタルサラウンド・アンプ
- 型番：VSA-C555
- お買い上げ日
- 故障または異常の内容（できるだけ詳しく）
- ご住所
- お名前
- 電話番号
- 訪問ご希望日
- ご自宅までの道順と目標（建物や公園など）

**■ 保証期間中は：**
修理に際しては、保証書をご提示ください。保証書に記載されている当社の保証規定に基づき修理いたします。

**■ 保証期間が過ぎているときは：**
修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

## 仕様

### オーディオ部

実用最大出力（EIAJ、1kHz、10%、6Ω）
　フロント ........ 40 W/CH
　センター ........ 40 W
　サラウンド ........ 40 W/CH

入力端子（感度/インピーダンス）
　DVD, TV/BS, DVR/VTR, VIDEO, FRONT
　........ 200 mV/47 kΩ

SN比(IHF、ショートサーキット、Aネットワーク)
　DVD, TV/BS, DVR/VTR, VIDEO, FRONT ........ 98 dB

周波数特性
　DVD, TV/BS, DVR/VTR, VIDEO, FRONT
　........ 5 Hz～100 kHz $^{+0}_{-3}$dB

出力端子（レベル/インピーダンス）
　VTR ........ 200 mV/2.2 kΩ

### ビデオ部

入力端子（感度/インピーダンス）
　DVD, TV/BS, DVR/VTR, VIDEO, FRONT
　........ 1 Vp-p/75 Ω

出力端子（レベル/インピーダンス）
　VTR, 映像(テレビへ) ........ 1 Vp-p/75 Ω

周波数特性
　DVD, TV/BS, DVR/VTR, VIDEO, FRONT
　映像(テレビへ) ........ 5 Hz～10 MHz、$^{+0}_{-3}$dB

SN比 ........ 65 dB

### 電源部・その他

電源 ........ AC 100V、50/60 Hz

消費電力 ........ 93 W

　スタンバイ時消費電力 ........ 0.9 W

外形寸法 ........ 420 (幅) × 65 (高さ) × 324 (奥行) mm

質量 ........ 4.8 kg

### 付属品

リモートコントロールユニット（リモコン） ........ 1
単3形乾電池（R6P） ........ 2
電源コード ........ 1
光デジタルケーブル ........ 1
スピーカーコードラベル ........ 1
取扱説明書 ........ 1
ホームシアター入門（簡易マニュアル） ........ 1
安全上のご注意 ........ 1
保証書 ........ 1
ご相談窓口・修理窓口のご案内 ........ 1

●仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

## 思った通りに動かないときは

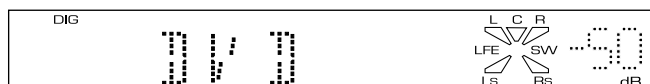
思った通りに動かないと思ったときは以下を確認してみてください。案外簡単なミスや勘違いをしていることもあります。また、本機以外に原因がある場合も考えられますので、ご使用中の他の機器や、同時に使用している電気機具も合わせてご確認ください。それでも正常に動作しない場合はお買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションに修理を依頼してください。所在地、電話番号は別添の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

「音が出ない」場合はまず以下の1,2を確認してみてください。

**1 テストトーンを出力してみる（➡23ページ）**

全てのスピーカーからテストトーン（ザーという音）が出力されていることを確認してください。
テストトーンが出力されないスピーカーがあるときは、接続やスピーカーの設定（➡24～25ページ）をもう一度確かめてください。

**2 ソフトを再生したときのフォーマットインジケーターを確認する（➡9、20ページ）**

本機は音が出る設定になっているスピーカーと入力している圧縮音声信号が一目で確認することができます。思った通りに音が出ていない場合、入力信号の設定については20ページの「入力機器の設定確認」を、リスニングモードについては35～36ページをご覧ください。

すべてのスピーカーから音が出る設定となっていて、マルチチャンネル信号を入力している状態のフォーマットインジケーター

それでも音が出ないときは、以下から54ページまでをご覧ください。

### 電源が入らなかったり、切れるとき

| 症状 | 考えられる原因 | 対応 |
|---|---|---|
| 本機使用中にOVERLOADと点滅表示し、自動的に電源が切れる。 | 音量を上げすぎている。 | 音量を下げてから電源を入れ直す。 |
| | スピーカーコードがショート（接触）している。 | スピーカーコードの芯線をもう一度しっかりねじり直し、スピーカー端子からはみ出ないように接続する。 |
| FAN STOPと点滅して自動的に電源が切れる。 | 後面部の放熱孔から異物が混入して、放熱用ファンの異常と検出された。 | 異物を取り除いてください。 |
| | 放熱用ファンの故障です。 | 修理を依頼してください。（50ページ） |
| AMP ERRと点滅して自動的に電源が切れる。 | 本機の故障です。 | 速やかに使用を停止し、電源コードを抜いた後に修理を依頼してください（50ページ）。この症状が起きた後に電源のON/OFFを繰り返すのはお止めください。 |

お使いになる前に
各部の名称とはたらき
接続
基本操作
設定
応用操作
リモコンの使いこなし
その他

## その他

### 音が出なかったり、ノイズが出るとき

| 症状 | 考えられる原因 | 対応 |
|---|---|---|
| 音が出ない。 | 入力切換が再生機器に合っていない。 | 再生機器の入力に合わせる。（➡19ページ） |
| | ミューティング状態になっている。 | リモコンの消音ボタンを押す。 |
| | 音量が下がっている。 | 音量（MASTER VOLUME）を調整する。 |
| | 接続コードが端子から外れている、または間違えて接続されている。 | 接続を確認する。（➡13〜18ページ） |
| | スピーカーコードがショート（接触）している。 | スピーカーコードの芯線をしっかりとねじり、もう一度スピーカーコードを接続し直す。 |
| | 端子や接続コードのピンプラグが汚れている。 | 汚れを拭きとる。 |
| デジタル機器の音が出ない、またはノイズが出る。 | DVDプレーヤーでデジタル出力設定をOFFにしている。 | DVDプレーヤーのデジタル出力設定をONにする。 |
| | CD-ROMなどのデータ信号を入力している。 | 本機はデータ信号には対応していません。 |
| フロントの片チャンネルから音が出ない。 | 左右のチャンネルレベルがかたよっている。 | 左右のチャンネルレベルを調整する。（➡23ページ） |
| サラウンドスピーカーまたはセンタースピーカーから音が出ない。 | スピーカーの設定で「無し」に設定している。 | スピーカーを正しく設定する。（「スピーカーの設定」（➡29ページ）をご覧ください） |
| | サラウンド、センタースピーカーのレベルが下がっている。 | スピーカーのレベルを上げる。（「スピーカー出力レベルの設定」（➡23ページ）をご覧ください） |
| | サラウンド、センタースピーカーの接続が外れている、または間違えて接続されている。 | スピーカーを正しく接続する。（「スピーカーの接続」（➡16ページ）をご覧ください） |
| | 2ch出力のリスニングモード（「ステレオ」など）を選んでいる。 | マルチ出力のリスニングモード（「サラウンド」など）を選ぶ。（➡37ページ） |
| | 再生ソフトや放送自体に2ch分の音声しか入っていない。（ステレオ放送など） | 入力信号の種類に関わらず、常にマルチチャンネルサラウンドで聴きたいときはリスニングモードをマルチ出力のリスニングモード（「サラウンド」など）にしてください。（➡37ページ） |
| サブウーファーの音が出ない（または小さい）。 | スピーカーやサブウーファーの設定でサブウーファーから音が出ない設定になっている。 | サブウーファーの設定をPLSまたはONにするか、フロントスピーカーの設定をSMALLにする（➡28,30ページ）。 |
| | サブウーファーのレベルが下がっている。 | サブウーファーのレベルを上げる。（「スピーカー出力レベルの設定」（➡23ページ）をご覧ください） |
| | サブウーファー本体のボリュームが下がっている。 | サブウーファー本体のボリュームを上げる。 |
| | LFEアッテネーターの設定がOFFになっている。 | 0 dBまたは−10 dBに設定する。（「LFEアッテネーターの設定」（➡31ページ）をご覧ください） |
| | サブウーファーの接続が外れている。 | サブウーファーを接続する（➡16ページ）。 |
| | マナーモードを選択している。 | マナーモードを解除する（➡38ページ）。 |
| DD/DTSなどのソフトを再生しても音が出ない。またはノイズが出る。 | デジタル接続が外れて、アナログ入力信号を再生している。（DD DIGITALまたはDTSインジケーター消灯） | 機器を正しくデジタル接続する。（➡13ページ） |
| | 使用しているDVDプレーヤーがDTS信号を出力していない。またはDTS信号の出力設定がOFFになっている。 | DVDプレーヤーの取扱説明書をお読みになり、DTS信号を出力できるように設定する。 |
| | デジタル出力レベル調整機能がついているCDプレーヤーなどの場合、デジタル出力レベルの設定が低すぎる。 | 機器のデジタル出力レベルを上げる。 |
| | 音声入力がANALOGに設定されている。 | 音声入力切換で「AUTO」か「DIGITAL」を選択する（➡21ページ）。 |
| DTS対応のCDプレーヤーでサーチ中にノイズが出る。 | サーチ中にCDに含まれるデジタル情報を読み取ってしまう。 | 故障ではありません。サーチ中はアンプの音量を下げ、スピーカーから出る音を抑える。 |
| OVERHEATと点滅表示したまま音が出なくなる。 | 本機内部の温度が許容値を超えた。 | 通風をよくする。 |
| | | 一度電源を切り、冷えてから使用する。（冷やしてから使用してもOVERHEATが表示されるときは、音量を少し下げてお楽しみください） |
| | | *OVERHEAT表示中は電源以外のボタンは効かなくなります |

| 症状 | 考えられる原因 | 対応 |
|---|---|---|
| 音がひずむ | 音量を上げすぎている。<br>アナログ入力信号のレベルが大きすぎる。 | マスターボリュームを下げる。<br>インプットアッテネータをONにする。（➡34ページ） |
| スピーカーから高音しか出ない。 | スピーカーの設定が小（SMALL）に設定されている。<br>低音域を再生する能力がないスピーカーを使っている。 | スピーカーの設定を大（LARGE）に設定する。（➡28～29ページ）<br>スピーカーを変える。 |
| 発振している。（異常音が出たり映像が乱れる） | 本機と接続機器間にループができている。 | 接続またはテレビの入力切換を変える。 |
| 96kHz/24bitのソフトを再生すると音が大きい。 | ソフトに収録されている音量レベルが大きい。 | マスターボリュームを下げる。 |
| 映像が乱れたり、カセットデッキにノイズが入ったりする。 | 本機と干渉している。 | 本機またはカセットデッキの設置場所を変える。 |
| デュアルモノの設定をしてもBSデジタル放送の二か国語音声が切り換わらない。 | 放送がステレオの二か国語放送などで、デュアルモノラル信号ではない。 | デュアルモノの設定は入力信号がデュアルモノラルフォーマットのときのみ有効です。それ以外のときは、BSデジタルチューナー側(テレビ側)で切換操作を行ってください。 |
| 本機を通して録画したのに音が録音されていない。 | 入力選択した機器の音声がデジタルでしか接続されていない。 | デジタル入力信号はVTR出力端子からは出力されません。入力選択した機器の音声をアナログでも接続してください。 |
| 本機を通して録音した音がスピーカーから出てくる音と違う。 | VTR端子からはアナログ入力端子から入力された音がそのまま出力されるため。 | |
| THDCT NGと点滅表示したまま音が出なくなる。 | 温度検出用部品（サーミスタ）の故障です。 | 修理を依頼してください。（➡50ページ） |
| テストトーンが出てこないスピーカーがある | 接続がはずれている。<br>スピーカーの設定（➡28～29ページ）で「無し」に設定されている。 | 正しく接続し直してください。<br>スピーカーの設定を正しく行ってください。 |

## 映像が出なかったり、乱れるとき

| 症状 | 考えられる原因 | 対応 |
|---|---|---|
| 入力切換を合わせても、映像が出ない。 | 入力機器およびテレビとの接続に、違うタイプのビデオコードを使用している。<br>入力機器の映像出力設定が正しくない。<br>テレビとの接続をS映像端子と映像端子の両方でつないでいて、テレビ側でS映像入力を優先している。 | 同じタイプの映像ケーブルで入力機器およびテレビを接続する（13ページ）。<br>入力機器の取扱説明書をお読みになり、正しい映像出力設定を行う。<br>テレビの取扱説明書をお読みになり、正しく接続する。 |
| 録画できない。 | 入力機器の映像出力をS映像端子のみで接続している。 | 映像端子も接続する。 |
| 映像が乱れる。 | 本機と他機器（カセットデッキなど）が干渉している。 | 本機または他機器の設置場所を変える。 |

# その他

## インジケーターが点灯しなかったり、違うとき

| 症状 | 考えられる原因 | 対応 |
|---|---|---|
| DD/DTSなどのソフトを再生しているときにデコードのインジケーターが点灯しない。または違うインジケーターが点灯する。 | 再生しているプレーヤーが停止か一時停止の状態になっている。 | 再生しているプレーヤーの再生を開始する。 |
| | 再生しているプレーヤーの音声出力設定が間違っている。 | 再生しているプレーヤーの音声出力設定を正しく行う。 |
| | 再生しているソフトの音声設定が間違っている。 | 再生しているソフトの音声設定を正しく行う。 |
| | DDやDTSで収録されていない部分を再生している。(メニュー画面など) | DDやDTSで収録された音声を再生しているときのみインジケーターが点灯します。 |
| BSデジタル放送をデジタル接続で聴いているときに、AACインジケーターが点灯しない。 | BSデジタルチューナー（またはBSデジタルチューナー内蔵テレビ）の音声出力設定でPCMを選択している。 | チューナーの取扱説明書を読んで、MPEG(AAC)信号を出力するように設定する。 |
| | 放送がマルチチャンネル放送（5.1chなど）ではない。 | ステレオ放送やモノラル放送のときはAACインジケーターは点灯しません。 |

## リモコンや設定、その他

| 症状 | 考えられる原因 | 対応 |
|---|---|---|
| リモコン操作ができない。 | リモコンが違う機器の操作モードになっている。 | リモコンの操作モードを切り換える。（➡42ページ） |
| | 操作したい機器のリモコンコードが呼び出されていない。 | 「プリセットコードの設定」を行う。（➡43～44ページ） |
| | リモコンの電池が消耗している。 | 電池を交換する。（➡8ページ） |
| | 距離が離れすぎている。角度が悪い。 | 7m以内、左右30°以内で操作する。（➡8ページ） |
| | 途中に信号を遮る障害物がある。 | 障害物を取り除くか、操作する場所を移動する。 |
| | 蛍光燈などの強い光がリモコン信号受光部に当たっている。 | リモコン信号受光部に光が直接当たらないようにする。 |
| | 本機のCONTROL IN端子にコードが接続されている。 | コントロール出力端子のみにプラグを接続した機器に向けてリモコンを操作する。 |
| 表示が暗すぎたり、明るすぎたりする。 | 表示部の明るさ調整が適切でない。 | 表示部の明るさ調整（ディマー）を行う。（➡39ページ） |
| 表示が操作時に点灯し、すぐに消える。 | 表示部の明るさがOFFになっている。 | 表示部の明るさ調整（ディマー）を行う。（➡39ページ） |
| 設定が全てクリアされている | 約1ヶ月以上、電源コードを抜いたままにしておいた。 | 左記の状態では、各設定はクリアされます。再度設定してください。 |
| HEAT UPと5秒間点滅する | 本機内部の温度が非常に高い。 | 通気をよくする。（➡7ページ）<br>音量を下げる。 |
| CH選択ボタンを押しても選択できないスピーカーがある | スピーカーの設定（➡24～25ページ）で「無し」に設定されている | スピーカーの設定を正しく行ってください。 |
| | 2ch出力のリスニングモードを選択している | マルチ出力のリスニングモードを選択してください。（➡37ページ） |

# 目的別索引

本機でやりたいことに合わせて必要なページを見つけてください。

| 目的 | | 対応する項目 | ページ |
|---|---|---|---|
| 再生 | ステレオ再生（フロント2つのスピーカーから音声を出力）したい | 基本再生<br>リスニングモードの種類と効果<br>リスニングモードの選択 | 19ページ<br>&<br>35〜37ページ |
| | マルチチャンネルサラウンド再生（3つ以上のスピーカーから音声を出力）したい | 基本再生<br>リスニングモードの種類と効果<br>リスニングモードの選択 | 19ページ<br>&<br>35〜37ページ |
| サラウンドに関する設定 | 各チャンネルのスピーカーの有り／無し、大／小の設定をしたい | スピーカーの設定 | 28〜29ページ |
| | 各スピーカーの位置合わせをしたい | スピーカーまでの距離の設定 | 31〜32ページ |
| 音量調整 | 一時的に音を消したい | 消音（ミュート） | 39ページ |
| | 各チャンネルの音量レベルを調整したい | スピーカー出力レベルの調整 | 23ページ |
| | アナログ入力時の歪みを低減したい | インプットアッテネータの設定 | 34ページ |
| 音質 | LFE成分により生じた歪みを低減したい | LFEアッテネータの設定 | 31ページ |
| | ジャンルに合わせてサウンドを選びたい | リスニングモードの種類と効果<br>リスニングモードの選択<br>サウンドモードの選択 | 35〜38ページ |
| | 小音量でもセリフなどを聴きとりやすくしたい | ミッドナイトモード（ミッドナイト） | 38ページ |
| | | ダイナミックレンジコントロールの設定 | 33ページ |
| | 高音域や低音域の音を和らげたい | リスニングモードの種類と効果<br>リスニングモードの選択<br>サウンドモードの選択 | 35〜38ページ |
| | 低音のレベルを上げたい | リスニングモードの種類と効果<br>リスニングモードの選択<br>サウンドモードの選択 | 35〜38ページ |
| 周波数特性 | あるチャンネルの低音をほかのスピーカーで再生するときに、何Hz以下の低音を割りふるかを設定したい | サブウーファーの設定 | 30ページ |
| ユーザー設定 | 表示部の明るさを調整したい | 表示部の明るさ調整（ディマー） | 39ページ |
| リモコン | 他機器の操作をしたい | 操作モードの切り換え（他機器の操作） | 42ページ |
| | 他社の機器を付属のリモコンで操作したい | プリセットコード設定（リモコンコードの呼び出し） | 43〜44<br>46ページ |
| | プリセットコードの設定をクリアしたい | プリセットコード設定のリセット | 44ページ |
| その他 | すべての設定をクリアして、買ったときと同じ状態にしたい | 設定オールリセット（本体操作のみ） | 40ページ |
| | 「サラウンド」や「ホームシアター」について詳しく知りたい | ホームシアター入門<br>用語解説 | 別添<br>&<br>47ページ |

# 索引（用語別）

## あ行



## か行



## さ行



## た行



## な行



## は行



## ま行



## ら行

## 索引（ディスプレイ）

### ABC順

## 製品のご購入や取り扱いについてのご相談窓口

● **パイオニア・カスタマーサポートセンター**（全国共通フリーフォン）

受付　月曜～金曜　9：30～17：00、 土曜　9：30～12：00、13：00～17：00 （日曜・祝日・弊社休日は除く）

家庭用オーディオ／ビジュアル製品のご相談窓口 ： フリーフォン **0070-800-8181-22**

カタログのご請求窓口 ： フリーフォン **0077-800-8181-33**

ファックス ： **03-3490-5718**

<ご注意>
フリーフォンは、ＰＨＳ、携帯電話、自動車電話、列車公衆電話、船舶電話、ピンク電話および海外からの国際電話ではご利用になれません。あらかじめご了承ください。

パイオニアホームページでのご案内

お問い合わせ先のご案内　*http://www.pioneer.co.jp/support/*

カタログ請求とメールサービス登録のご案内　*http://www.pioneer.co.jp/support/ctlg/index.html*

## 部品のご購入についてのご相談窓口

付属品（リモコン・取扱説明書など）のご購入や、補修用性能部品（修理使用部品）に関するご相談についてはパイオニア部品受注センターにご相談ください。部品の交換方法などの技術相談につきましては下記のパイオニア修理受付センターにご相談ください。

● **パイオニア部品受注センター**

受付　月曜～金曜　9：30～18：00、 土曜　9：30～12：00、13：00～17：00 （日曜・祝日・弊社休日は除く）

電話（フリーダイアル） ： **0120-5-81095**
一般電話 ： **0538-43-1161**
ファックス（フリーダイアル）： **0120-5-81096**

<ご注意>
フリーダイアルは、携帯電話、ＰＨＳではご利用になれません。あらかじめご了承ください。

## 修理のご依頼／修理についてのご相談窓口

修理を依頼される前に取扱説明書の「思った通りに動かないときは」の項目をご確認ください。それでも異常のある時は、必ず電源プラグを抜いてから、ご購入店へご連絡ください。
ご購入店がわからないときやお近くにないときは、パイオニア修理受付センターへご相談ください。（沖縄県を除く）

● **パイオニア修理受付センター**（沖縄県を除く全国）

受付　月曜～金曜　9：30～18：00、 土曜　9：30～12：00、13：00～17：00 （日曜・祝日・弊社休日は除く）

電話（フリーダイアル） ： **0120-5-81028**（ゴーパイオニア）
一般電話 ： **03-5496-2023**
ファックス（フリーダイアル）： **0120-5-81029**

<ご注意>
フリーダイアルは、携帯電話、ＰＨＳではご利用になれません。あらかじめご了承ください。

● **沖縄サービスステーション**（沖縄県のみ）

受付　月曜～金曜　9：30～18：00 （土曜・日曜・祝日・弊社休日は除く）

一般電話 ： **098-879-1910**
ファックス ： **098-879-1352**

**高調波ガイドライン適合品**


パイオニア株式会社　〒153-8654 東京都目黒区目黒1丁目4番1号

<TFJZC/02G00001>　Printed in China　<ARA7156-A>